

令和4・5年度  
勤務医部会委員会答申

諮問「実効的な勤務医意見の集約・支援について  
—医師会活動に勤務医の参加を一—」

令和6年3月

公益社団法人福岡県医師会

勤務医部会委員会



令和6年3月15日

福岡県医師会  
会長 蓮澤浩明様

勤務医部会委員会  
委員長 中房祐司

答 申

勤務医部会委員会では、貴職からの諮問「実効的な勤務医意見の集約・支援について一医師会活動に勤務医の参加を一」について鋭意検討してまいりました。

この度、委員会の見解を取りまとめましたので答申いたします。

勤務医部会委員会  
委員長 中房 祐司  
副委員長 平川 勝之  
副委員長 松隈 哲人  
委 員 山下 博徳  
渡辺 恭子  
伊東 裕幸  
江口 冬樹  
倉本 晃一  
平城 守  
北園 孝成  
野村 政壽  
小玉 正太  
田中 文啓  
定永 倫明  
安藤 眞一  
戸次 鎮史  
田中 眞紀  
伊藤 重彦  
櫻井 俊弘  
宗 宏伸  
(順 不 同)



# 目 次

はじめに	1
アンケートの実施について	3
アンケート【結果の概要】、【考察】、【結論・課題】等について	
●基本情報（7問）	4
●医師会のイメージについて（7問）	
問1－4	7
問5－7	9
●I 医師会から勤務医への情報発信について（12問）	
問1－4	12
問5－7	16
問8, 9-1)～3)	20
問9-4)～8)	23
問10-1)～3)	26
問11, 12-1)～2)	28
●II 勤務医が医師会に望むこと（16問）	
問1－5	32
問6－10	35
問11－13, 16	37
問14－15 自由記載	40
●III 勤務医の意見を集約する方法（3問）	
問1－3	42
おわりに	45
参考資料：アンケート質問項目	46

## はじめに

令和4・5年度の福岡県医師会勤務医部会委員会は蓮澤浩明福岡県医師会長より「実効的な勤務医意見の集約・支援について―医師会活動に勤務医の参加を一」をテーマに報告をまとめるように諮問を受けた。

当初、勤務医に医師会活動への参加を求めるには、会費の問題が極めて大きく、議論がその点のみに集中するのではないかとの意見が多く委員から聞かれた。実際に委員長である私も勤務医としての負担額の大きさからそのように考えていた。しかしながら、委員会で議論を進めるうちに、「鹿児島県のように勤務医の医師会加入率が非常に高い地域がある」、「メリットがあれば会費の高さに関わらず入会する」、「勤務医の要望に医師会が十分に対応できていない」、「医師会側からの情報発信が不足している」等の意見が出された。会費以外にも対応すべき問題点があると委員の間で認識されるようになった。このため、諮問答申にあたっては、改めて若手勤務医の医師会への要望や意見をしっかりと調査し、それに沿って対応策を検討する必要があるとの結論に至った。

そこで、福岡県内の若手勤務医にアンケートを行い、集計、解析して、委員が解説を加えることとした。アンケートでは、「回答者個人の基本情報」の次に、まず「医師会のイメージ」を問い、Ⅰ) 医師会から勤務医への情報発信、Ⅱ) 勤務医が医師会に望むこと、Ⅲ) 勤務医の意見を集約する方法の3項目に分類して質問した。

Ⅰ) 医師会から勤務医への情報発信については、回答者である若手勤務医の医師会情報入手の手段を問い、医師会入会の大きな支障の一つと考えられる会費の減免情報や医師会入会のメリットを知らせる内容の質問を設けた。Ⅱ) 勤務医が医師会に望むことについては、若手勤務医の入会を促進するために有用と思われることを問う質問を行った。加えて、煩雑さのために批判の多い入会ならびに転居時の会員継続の手続きとその改善の検討を進めていることが伝わる内容の質問を行った。

Ⅲ) 勤務医の意見を集約する方法については、意見集約の希望に加えて医師会の活動内容を知らせる質問を設けた。

アンケートは短時間で回答できるよう基本的には選択形式としたが、できるだけ正直な意見を吸い上げるために必要に応じて自由記載の欄も設けた。また、回答者の利便性や集計の正確さを考慮してGoogleformを用いたオンライン回答方式とした。

対象となる福岡県内全453病院に勤務する若手勤務医(50歳未満)約7,200名の内、855名(約11%)から回答があった。これまでの当委員会による諮問答申と同様に、アンケート結果を図表で示し、質問ごとに勤務医部会委員にて分担し、【結果の概要】、【考察】、【結論・課題】等について執筆した。その内容は福岡県医

師会の公式見解ではなく、委員会での議論を積み重ねてまとめたものでもない。あくまでも経験豊富な担当執筆委員の個人的な意見である点をご理解いただきたい。

この答申が、若手勤務医の意見として多くの福岡県医師会会員に理解され、勤務医の医師会活動への参加促進のための対策につながることを希望する。引いては、今後の日本医師会全体の組織率向上の一助となれば幸いである。

## アンケートの実施について

①種 類 1種類（勤務医師）

②設 問 数

- 基本情報について（7問）
  - 医師会のイメージについて（7問）
  - Ⅰ 医師会から勤務医への情報発信について（12問）
  - Ⅱ 勤務医が医師会に望むこと（16問）
  - Ⅲ 勤務医の意見を集約する方法（3問）
- 計45問

③対 象 県内全453病院

④対 象 者 研修医～40代の勤務医（令和5年4月1日時点の年齢が満50歳未満）

⑤対象者数 約7,200名（三師調査より）

⑥送付方法 医療機関管理者宛てへ文書にて依頼

⑦回答方法 オンライン回答（※QRコードで読み取り、Googleformにて回答。）

⑧調査期間 令和5年7月下旬～8月末

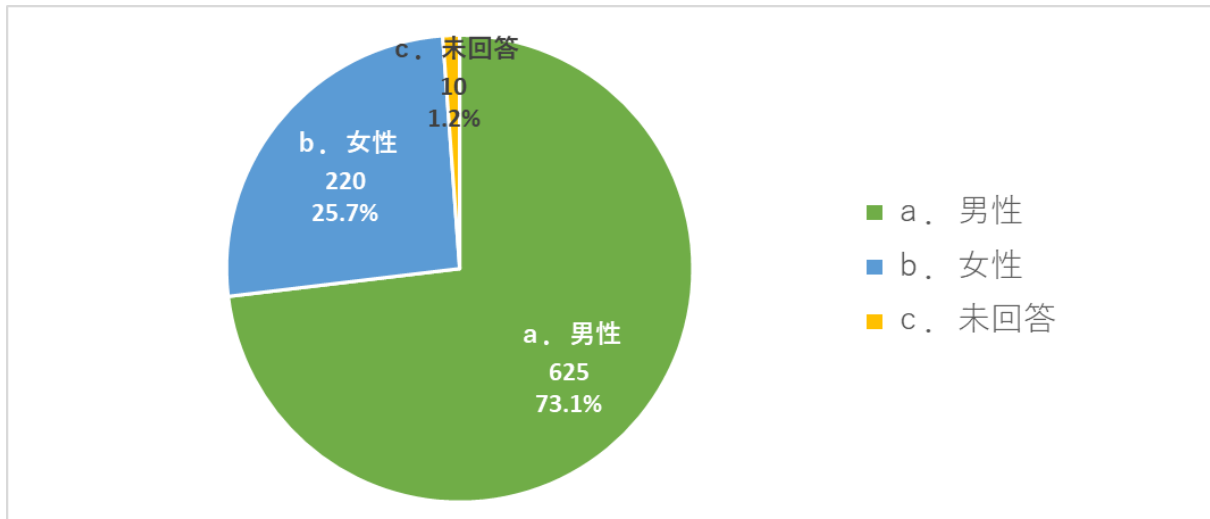
⑨回 答 数 855件（回答率約11.8%）



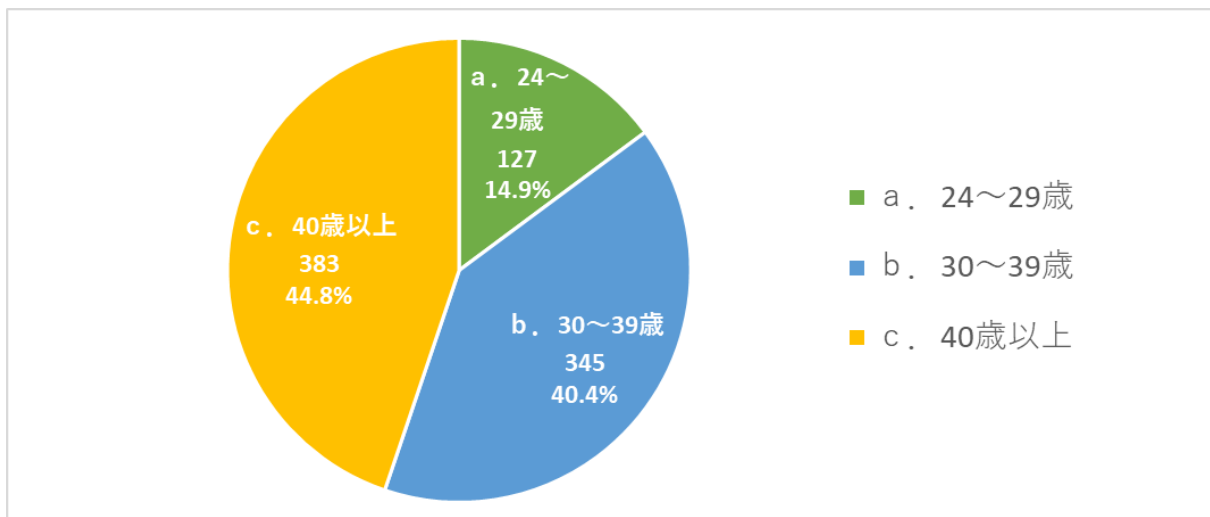
## アンケート【結果の概要】、【考察】、【結論・課題】等について

### ●基本情報（7問）

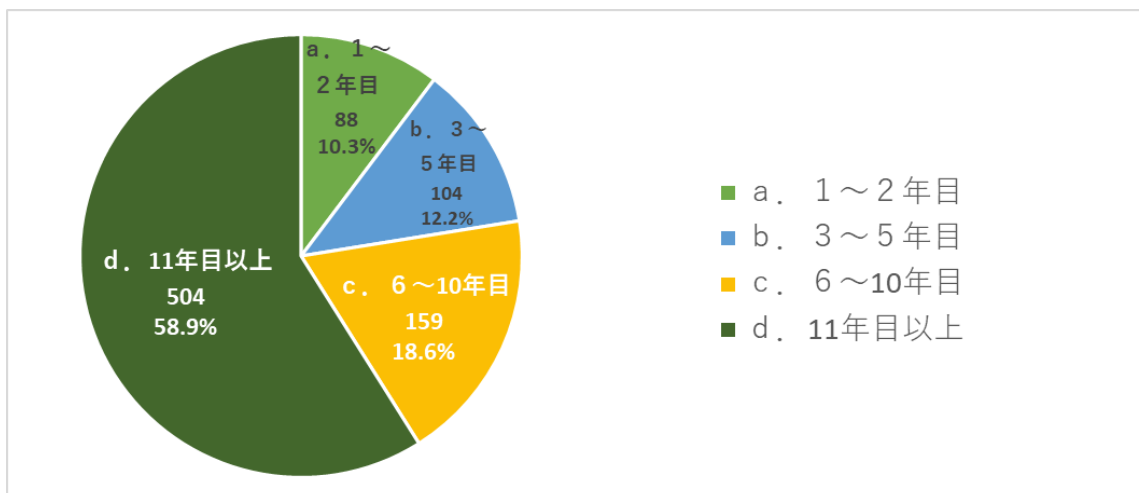
#### 1. 先生の性別をお尋ねします。（855件の回答）



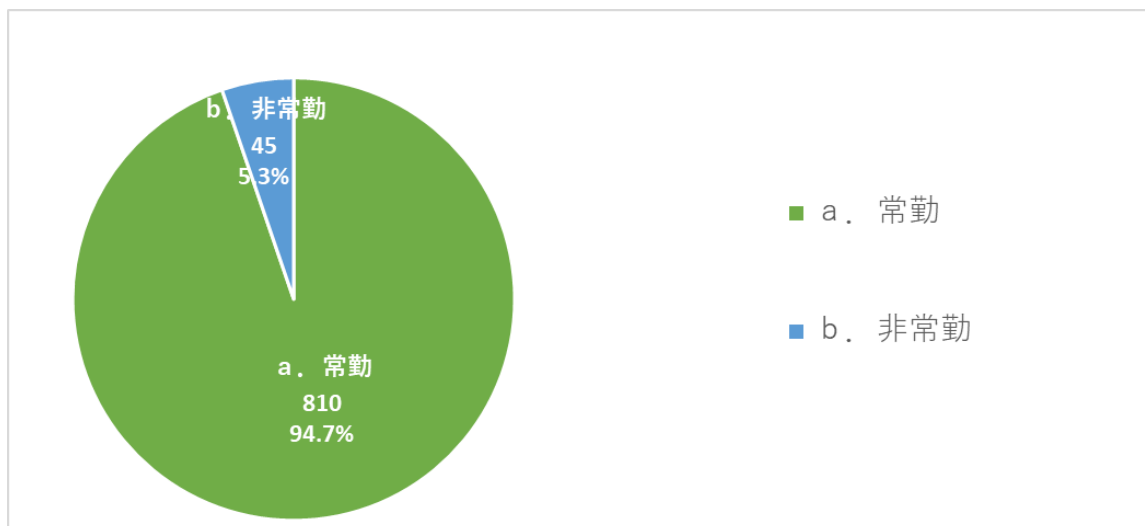
#### 2. 先生の年齢をお尋ねします。（855件の回答）



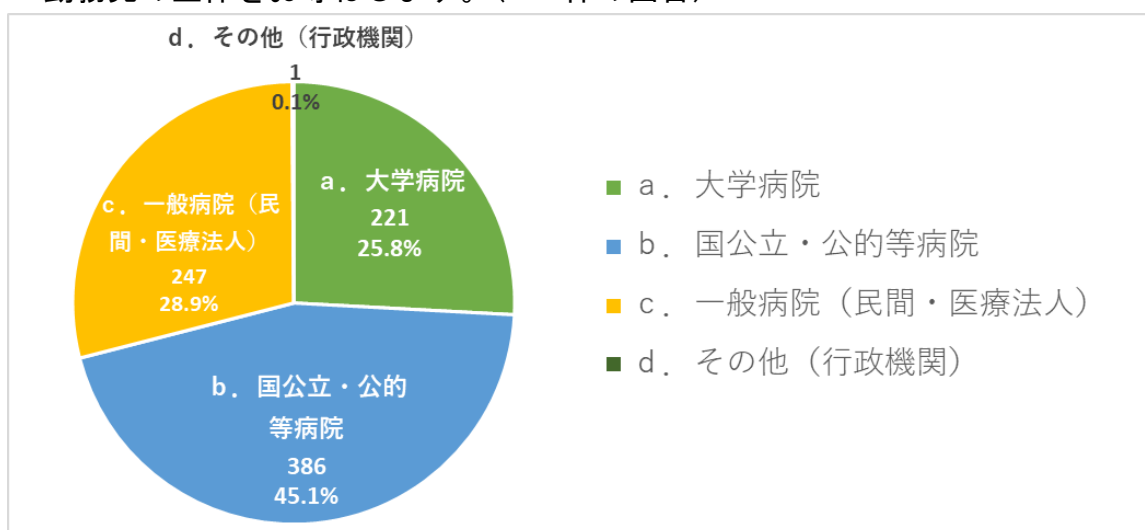
3. 卒後何年目ですか？（855 件の回答）



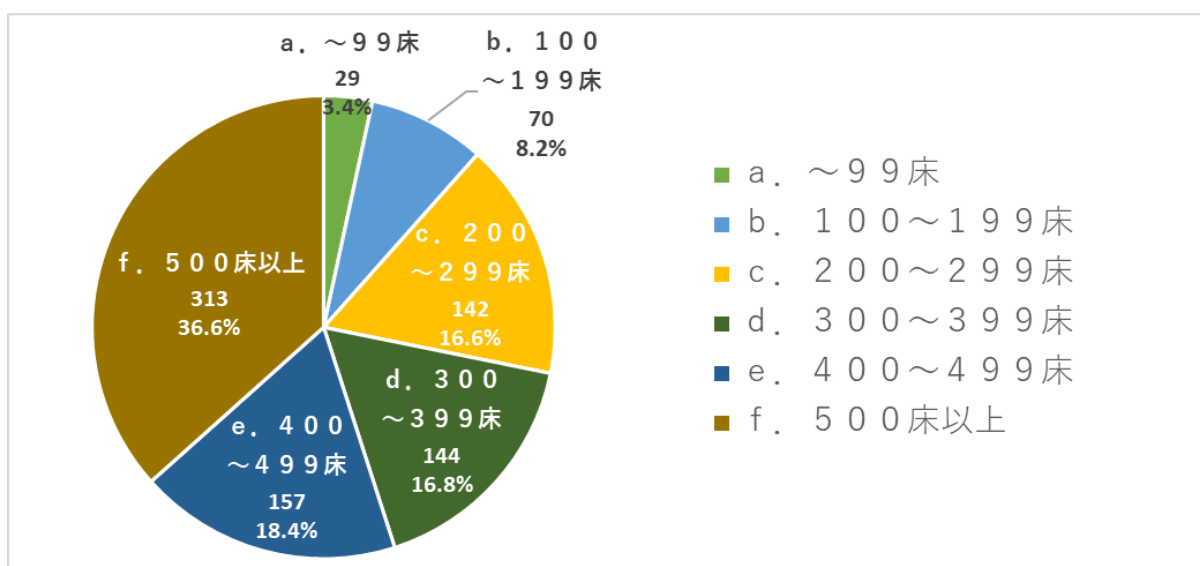
4. 勤務先にて、常勤または非常勤かをお尋ねします。（855 件の回答）



5. 勤務先の主体をお尋ねします。（855 件の回答）



6. 勤務先の病床数をお尋ねします。(855 件の回答)



7. 主たる診療科をお尋ねします。(855 件の回答)

(初期研修医の場合は3年目に進もうとしている診療科)

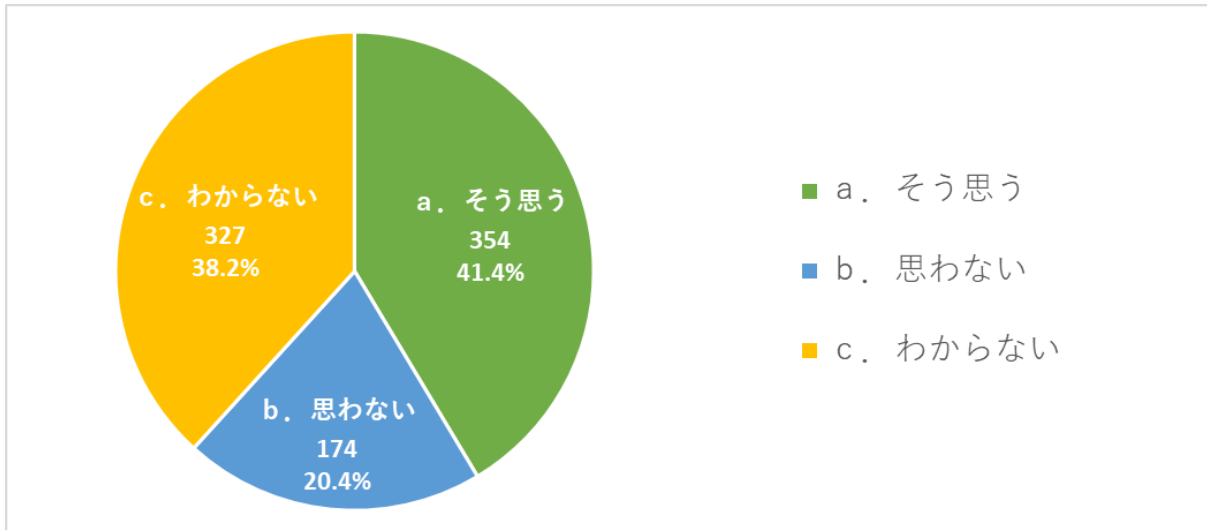
診療科	回答数	割合	診療科	回答数	割合	診療科	回答数	割合
1内科	44	5.1%	14心療内科	1	0.1%	27皮膚科	13	1.5%
2呼吸器内科	32	3.7%	15外科	45	5.3%	28耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	14	1.6%
3循環器内科	55	6.4%	16呼吸器外科	25	2.9%	29小児外科	8	0.9%
4消化器内科	56	6.5%	17心臓外科	7	0.8%	30産婦人科	48	5.6%
5腎臓内科	12	1.4%	18血管外科	5	0.6%	31リハビリテー ション科	3	0.4%
6脳神経内科	15	1.8%	19乳腺外科	9	1.1%	32放射線科	19	2.2%
7糖尿病内科(内 分泌代謝内科)	32	3.7%	20消化器外科	31	3.6%	33麻酔科	31	3.6%
8血液内科	7	0.8%	21泌尿器科	26	3%	34病理診断科	7	0.8%
9膠原病内科	5	0.6%	22脳神経外科	29	3.4%	35臨床検査科	1	0.1%
10感染症内科	2	0.2%	23整形外科	67	7.8%	36救急科	28	3.3%
11アレルギー科	0	0%	24形成外科	6	0.7%	37総合診療科	7	0.8%
12小児科	67	7.8%	25美容外科	2	0.2%	38緩和医療科	5	0.6%
13精神科	58	6.8%	26眼科	9	1.1%	39その他	24	2.8%

## ●医師会のイメージについて（7問）

### ○問1－4

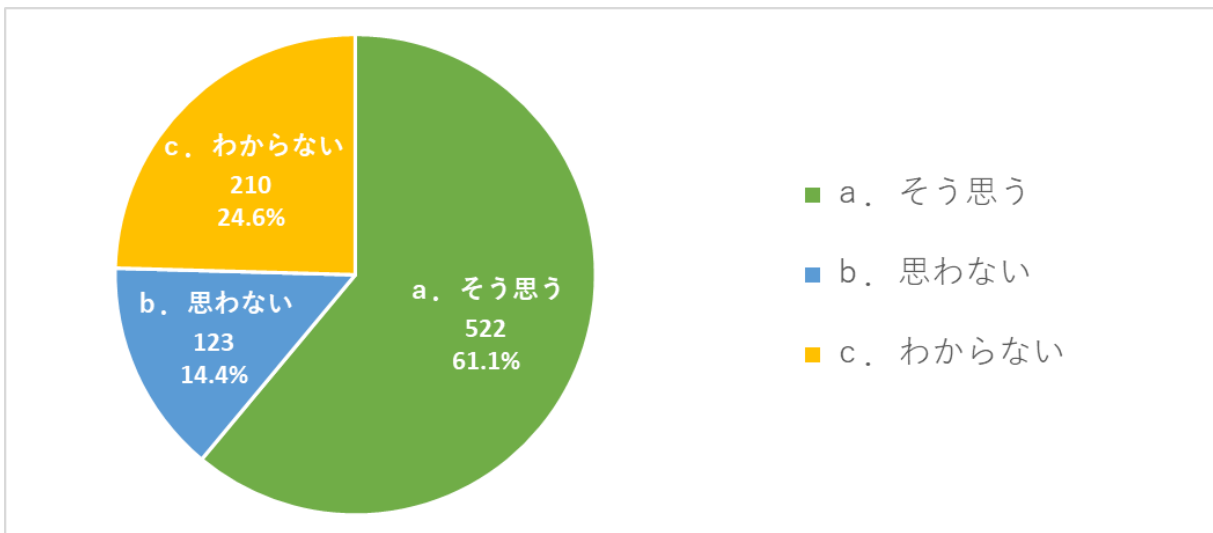
#### 【結果の概要】

#### 1. 医師会は医師の利益のために動く利益集団である（855件の回答）



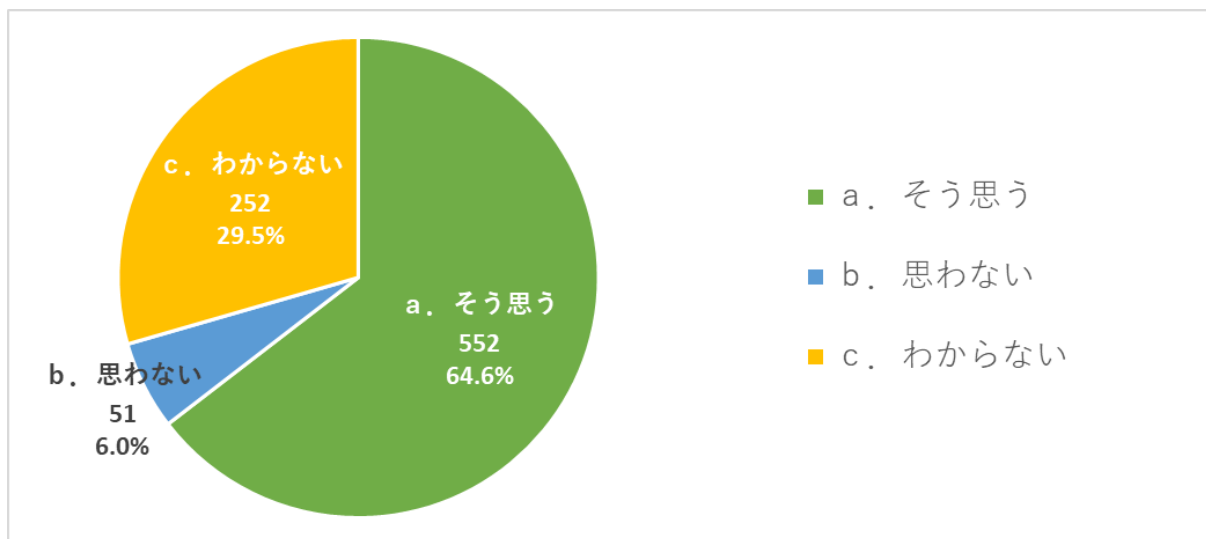
「a. そう思う（41.4%）」が「b. 思わない（20.4%）」の約2倍であり、「c. わからない（38.2%）」も約1/3を占めた。

#### 2. 開業医のために存在する（855件の回答）



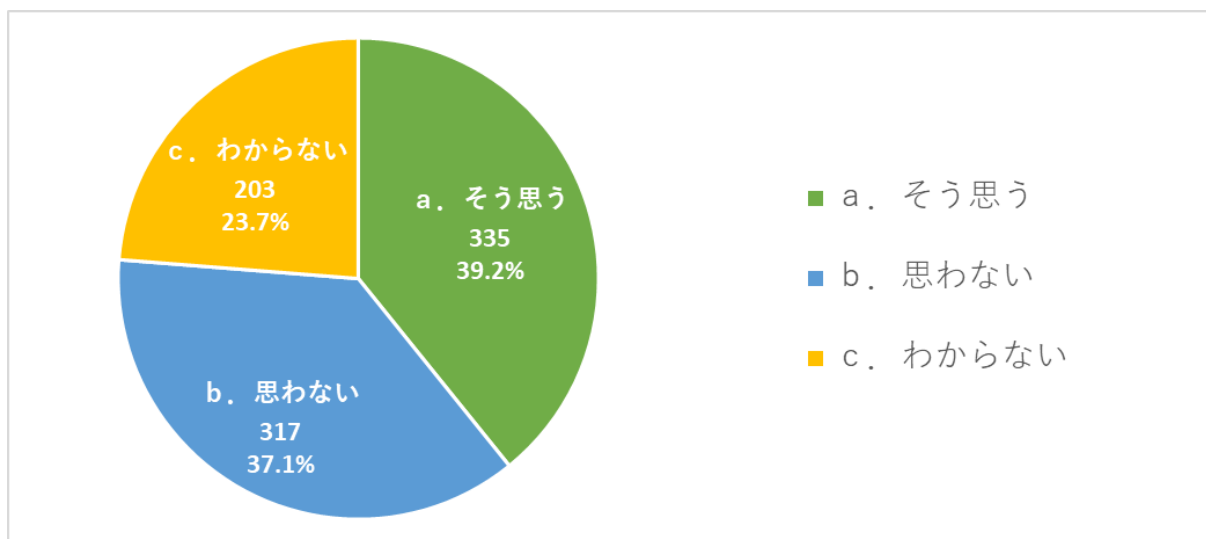
「a. そう思う（61.1%）」が「b. 思わない（14.4%）」よりかなり多かった。「c. わからない（24.6%）」は約1/4であった。

### 3. 会費が高いわりに、勤務医にとってメリットは少ない（855件の回答）



「a. そう思う（64.6%）」が「b. 思わない（6.0%）」より圧倒的に多く、「c. わからない（29.5%）」も約1/3であった。

### 4. 医師会が何のために存在しているか分からない（855件の回答）



「a. そう思う（39.2%）」と「b. 思わない（37.1%）」はほぼ同等で、「c. わからない（23.7%）」も相当数を占めた。

#### 【考察】

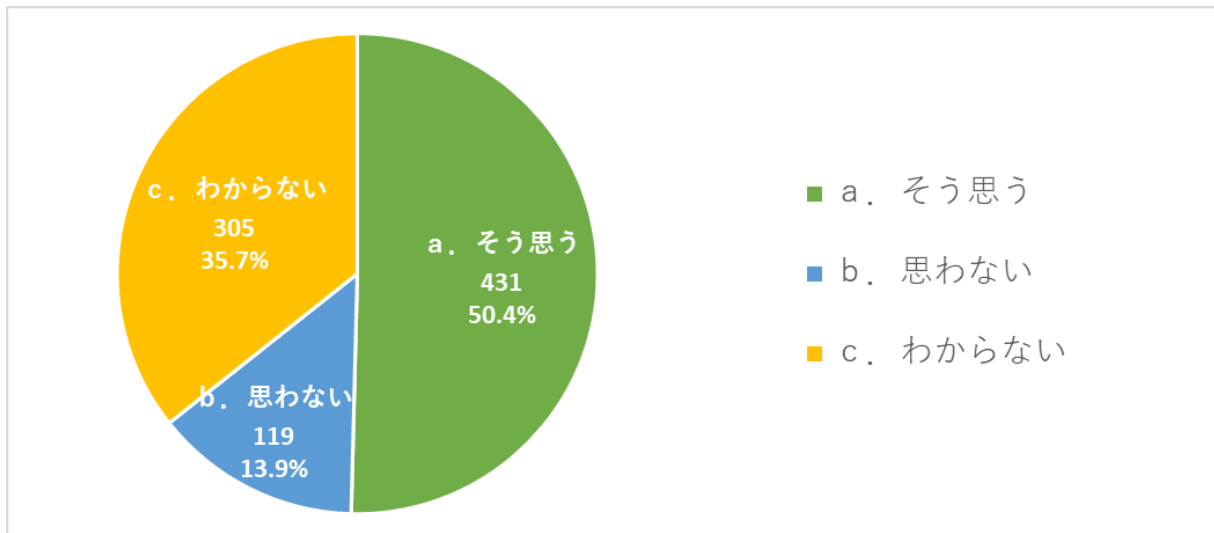
今回のアンケート対象である研修医～40代の勤務医（令和5年4月1日時点で満50歳未満）が抱えている医師会のイメージは、我々が予想し、危惧していたとおりの結果であった。つまり、医師会は開業医のために存在する利益集団であり、勤務医にとっては費用対効果から入会するメリットを見いだせていないということである。そして、医師会自体の存在意義に対しても、6割以上が認識できていない状況であった。また、各設問で、分からないという答えが2割以上存在していることも特徴的であった。これらの結果から、医師会は勤務医に対して活動内容やメリットを細やかに繰り

返し周知徹底する必要がある、医学生の中からアプローチすることも重要である。

## ○問 5－7

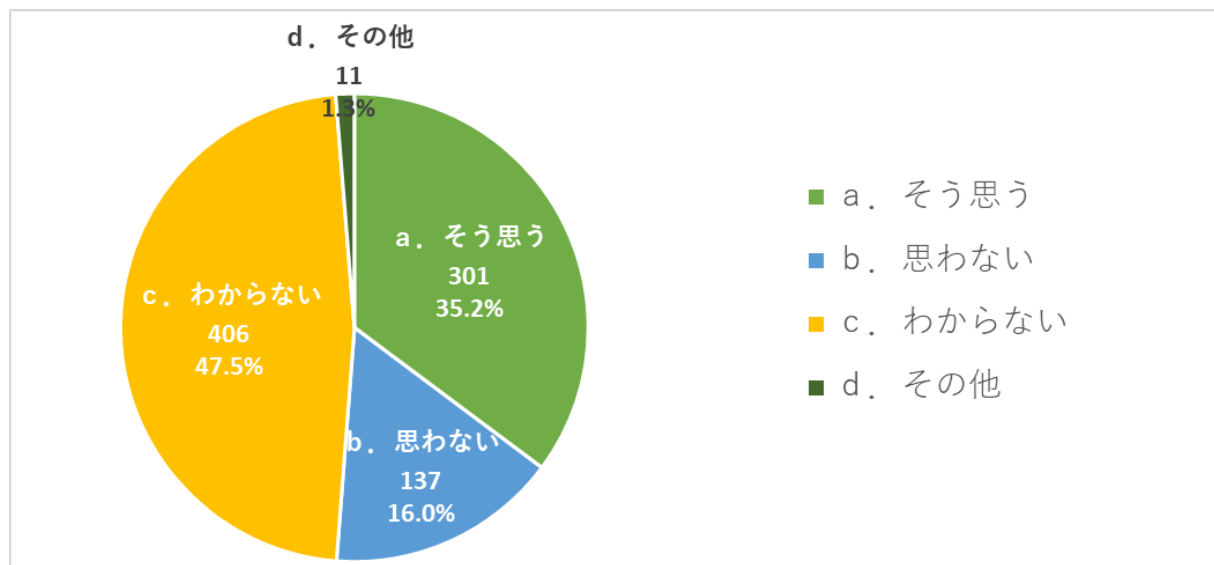
### 【結果の概要】

#### 5. 行政と医療制度の調整のために重要な働きを担っている（855 件の回答）



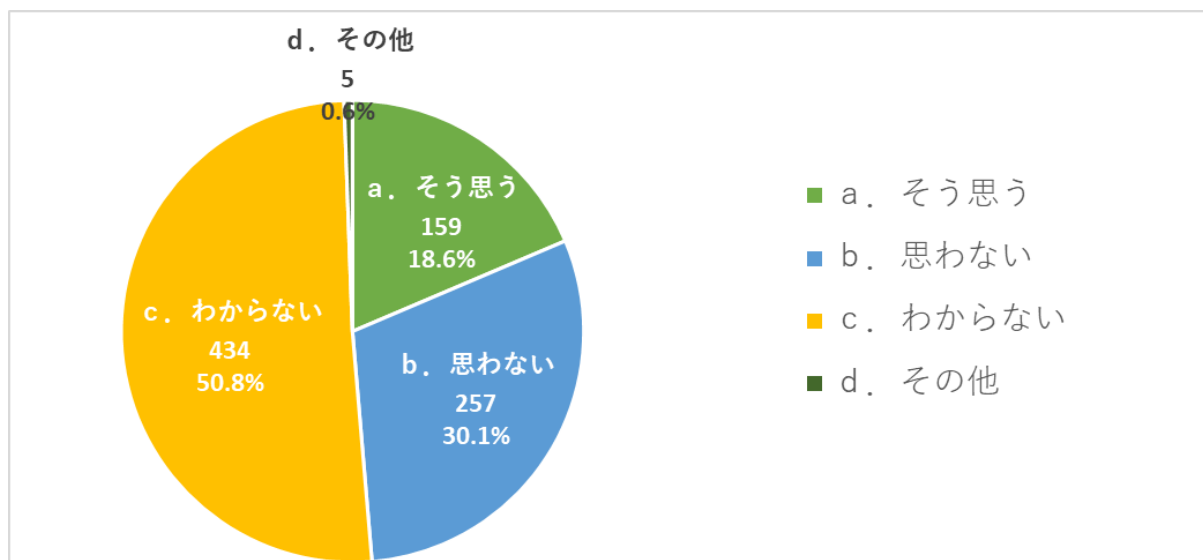
「a. そう思う」という回答が約半数を占め、「b. 思わない」が 13.9%、「c. わからない」が 35.7%であった。行政と医療制度の調整については高い評価を得ていた。

#### 6. 国民によりよい安全な医療を保険診療で行えるように、という国民医療を守る活動を行っている（855 件の回答）



「a. そう思う」が 35.2%、「b. 思わない」が 16.0%であった。一方、「c. わからない」という回答が 47.5%であった。自由記載の意見として、もっと情報を発信してほしいなどの意見もあった。国民医療を守る行動については一定の評価を得ている。

## 7. 今後、医師会に入会または継続しようと考えている（855件の回答）



「a. そう思う」が18.6%、「b. 思わない」が30.1%であった。一方、「c. わからない」という回答が50.8%であった。医師会に入会または継続したいという勤務医は少数派であった。

### 【考察】

医師会の行政と医療制度の調整のための役割については高く評価されていた。また、医師会の国民医療を守る行動についても一定の評価を得ていた。一方で医師会活動について「わからない」との回答が多く、勤務医に対して医師会の活動に関する情報発信が十分でない可能性がある。勤務医が医師会への入会や継続に消極的であり、情報発信の不足が一因であることが推測される。

### 【結論・課題】

医師会のイメージに関するアンケート結果は、全体的に期待した結果とは相反するものであり、我々が危惧した通りでもあった。また、すべての設問で「分からない」を選択した割合が多く見受けられた（23.7%～47.5%）。これらの結果から、勤務医にとって医師会の仕組みや活動内容が煩雑であり、正しく十分に周知されていないことが明白である。また、それらの情報に接する機会も少ない状況にあると考えられる。令和5年度より会費減免が臨床研修医より医学部卒後5年目まで延長されたが、この会費減免期間をいかに有効活用して、期間終了時に退会しないような具体的な対策が早急に必要である。日本医師会を頂点として都道府県医師会、郡市区等医師会からなる三層構造は、異動が多い勤務医にとって手続きが煩雑であり、会費の仕組みもわかりにくく、まずはそれらの一元化が望まれる。そして、医師会の組織率向上を優先とするならば、勤務医の会費は会費減免期間以降も極力抑えるべきである。そして、そ

これらの勤務医に寄り添った改革を、日本医師会から直接にメール等で細やかに情報発信することが、勤務医にとって日本医師会を身近な存在として感じ、有効であると考えられる。今までもあらゆる手段を講じて広報を行っていたが効果はなく、まずは勤務医の立場に立った改革を推し進めることこそが、医師会のイメージをよくするために必要である。

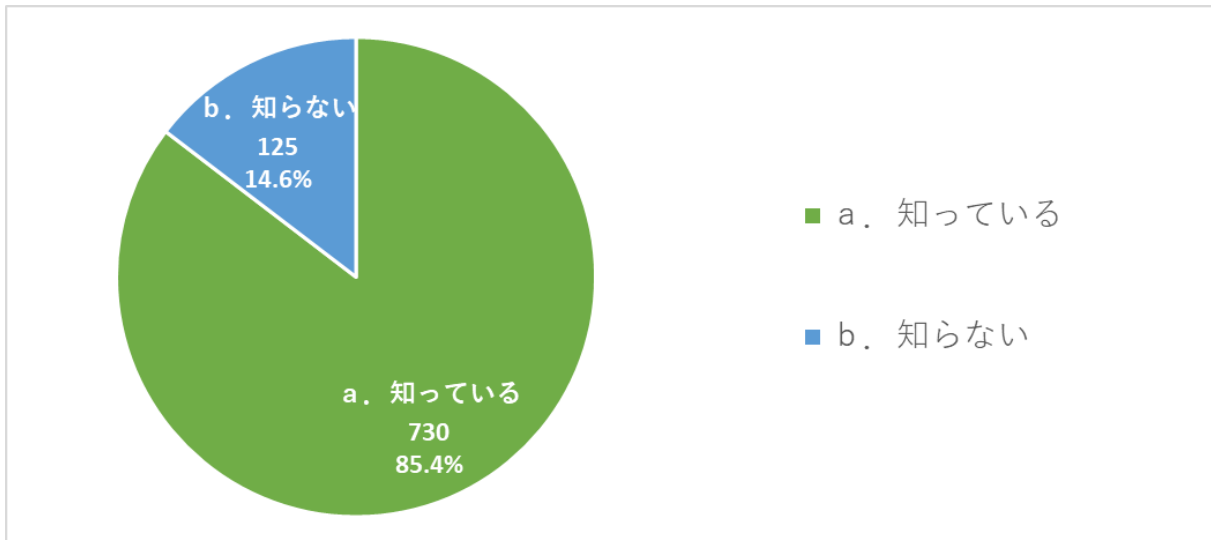


● I 医師会から勤務医への情報発信について（12問）

○問 1 - 4

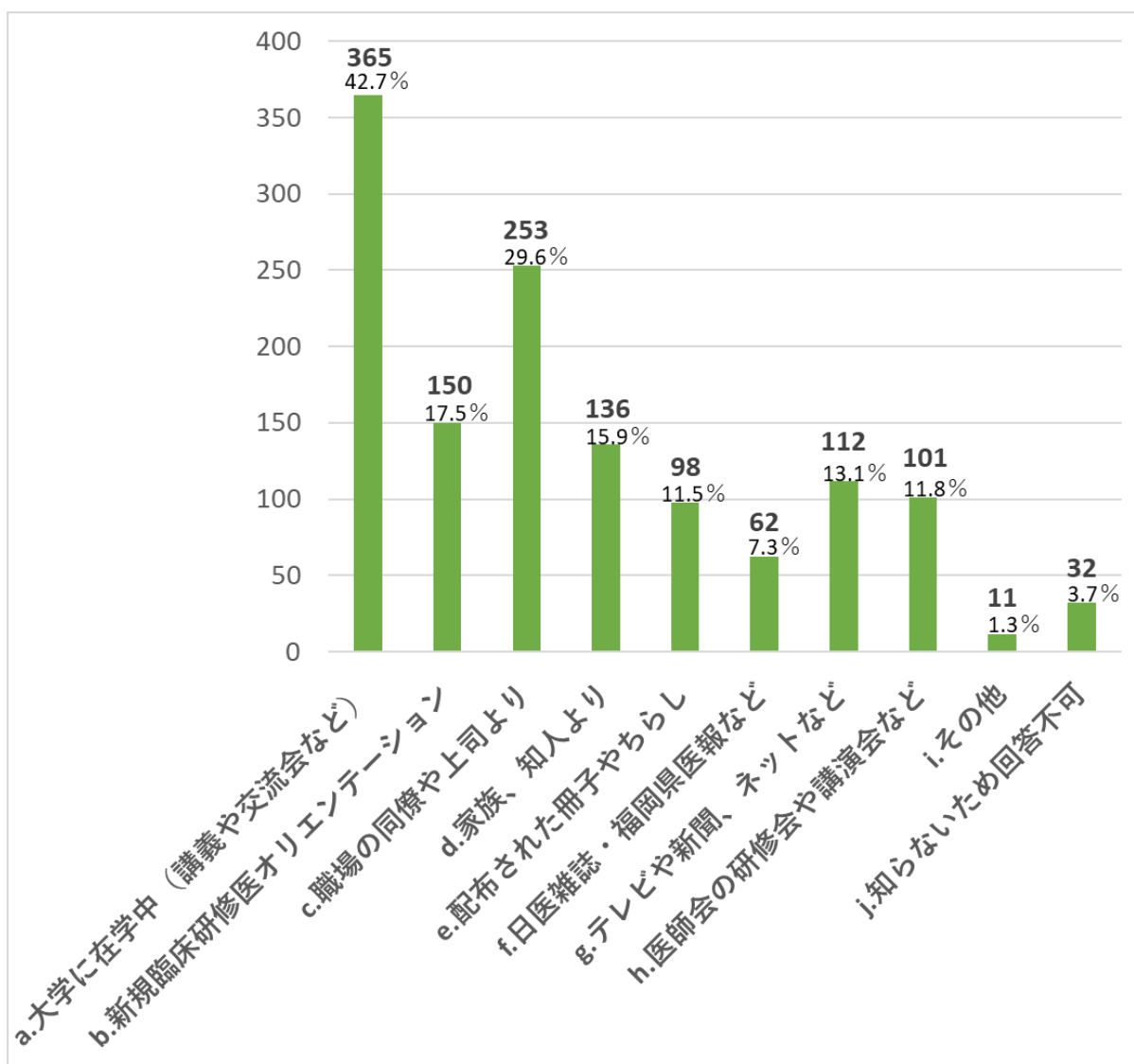
【結果の概要】

1. 医師会には勤務医も加入できることを知っていますか？（855件の回答）



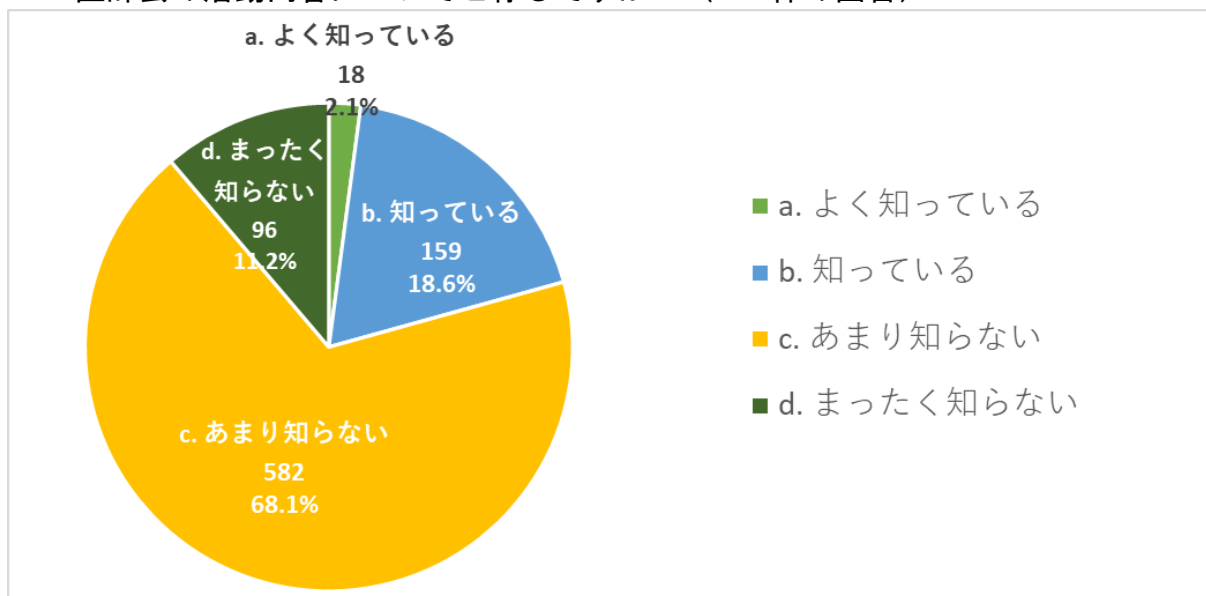
855人中730人（約85%）が勤務医も医師会に加入できることを知っていた。

2. 医師会のことはどこで知りましたか？（複数回答可）（855 件の回答）



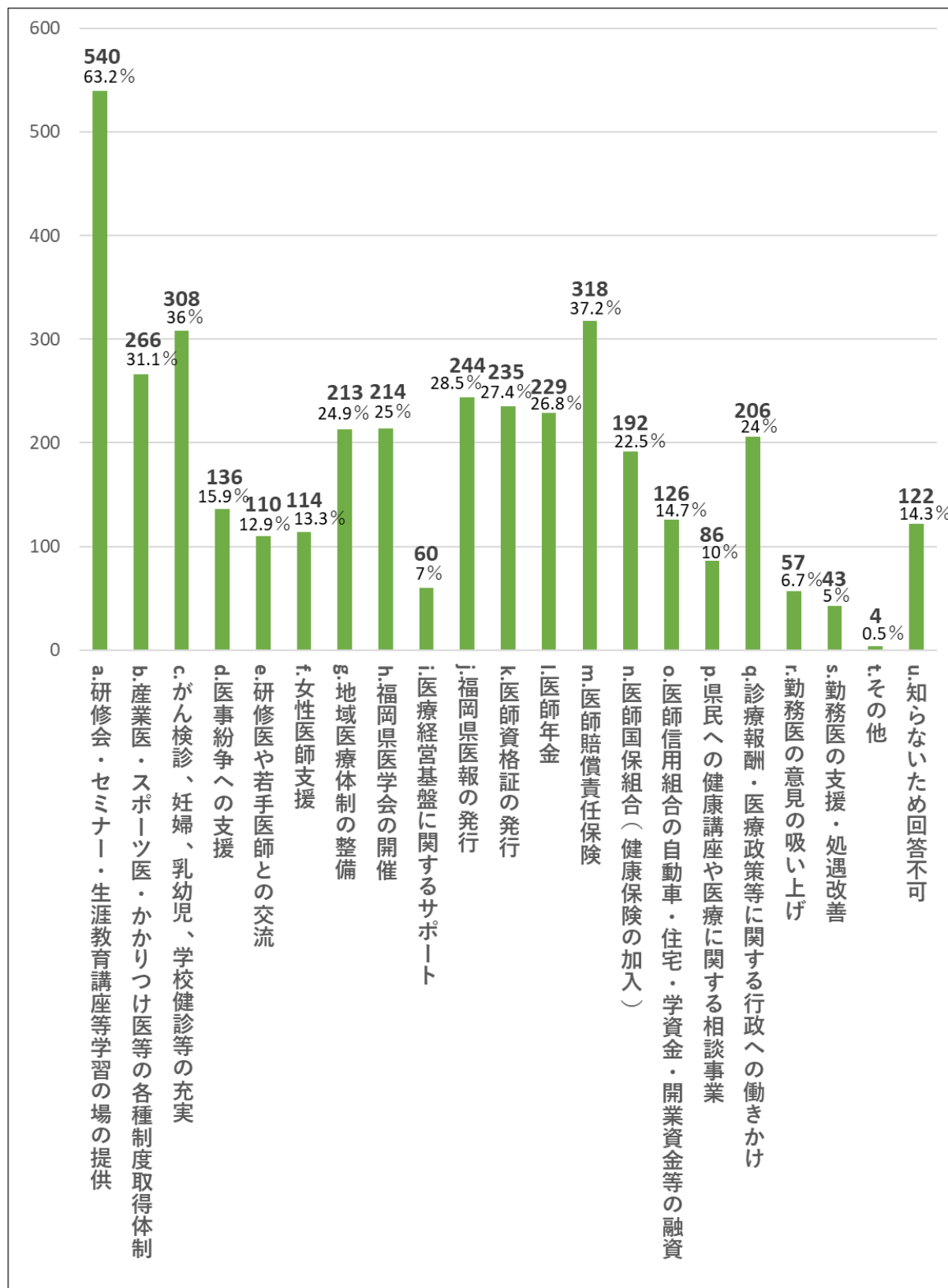
医師会のことを知ったのは、大学在学中（約 43%）が最も多く、職場の同僚や上司（約 30%）、新規臨床研修医オリエンテーション（約 18%）、家族や知人（約 16%）が続いた。

### 3. 医師会の活動内容についてご存じですか？（855 件の回答）



医師会の活動内容をよく知っている・知っている人は約 21%、あまり知らない人は約 68%、まったく知らない人は約 11%だった。

4. 医師会の活動について認識されているものを下記よりご回答ください。  
 (複数回答可) (855 件の回答)



医師会の各活動は a. 研修会・セミナー・生涯教育講座等学習の場の提供 (約 63%) を除くと 4 割以下の人にしか認識されていなかった。

### 【考 察】

医師会に勤務医も加入できることは比較的広く知られていたが、その一方で 15% の人が加入できることを知らないと回答しており、このような基本的な情報から周知する必要があると考えられた。

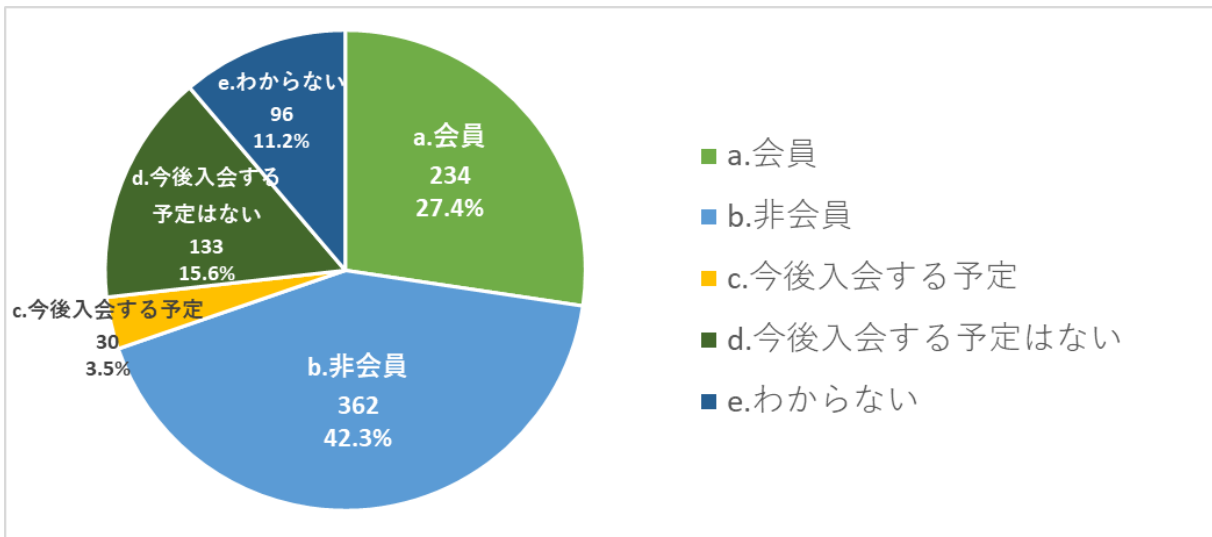
約 43%が大学在学中に、約 18%が新規臨床研修医オリエンテーションで医師会のことを知っており、学生や研修医向けの広報活動が幅広い、効率的な情報発信につながることを期待される。

約 80%の人が医師会の活動内容を「あまり知らない」または「まったく知らない」と回答しており、医師会活動のPR不足が窺えた。活動内容の認識度も総じて低かった。

## ○問 5－7

### 【結果の概要】

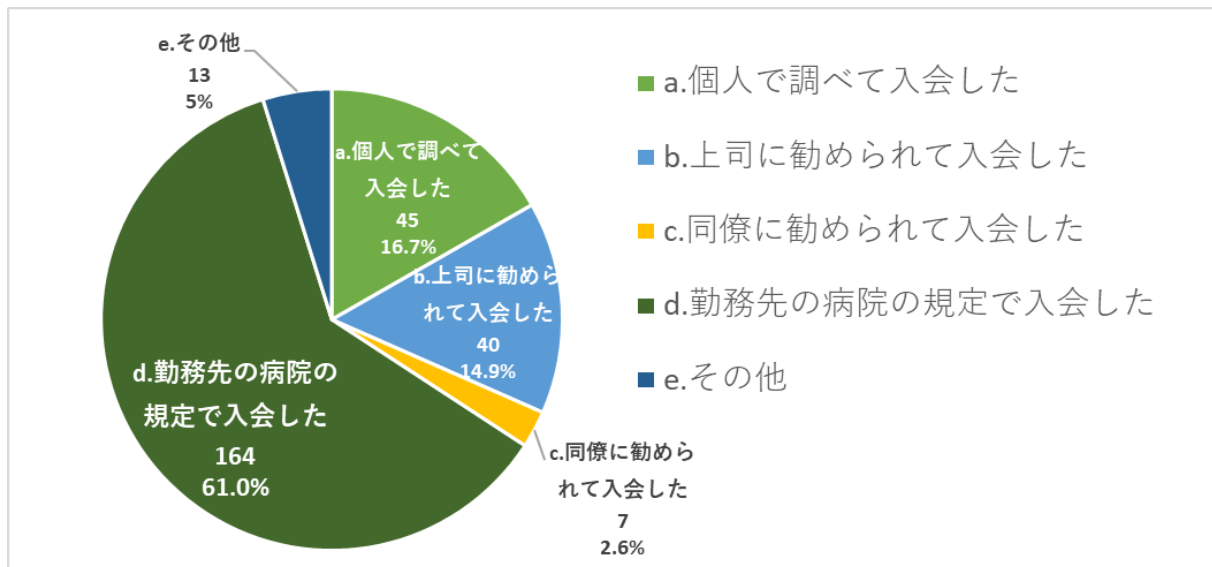
#### 5. 医師会に所属していますか？（855 件の回答）



勤務医で既に医師会に加入している方は約 27%、入会予定を含めても約 31%にとどまる。

※5で「a. 会員」「c. 今後入会する予定」と答えた方にお尋ねします。

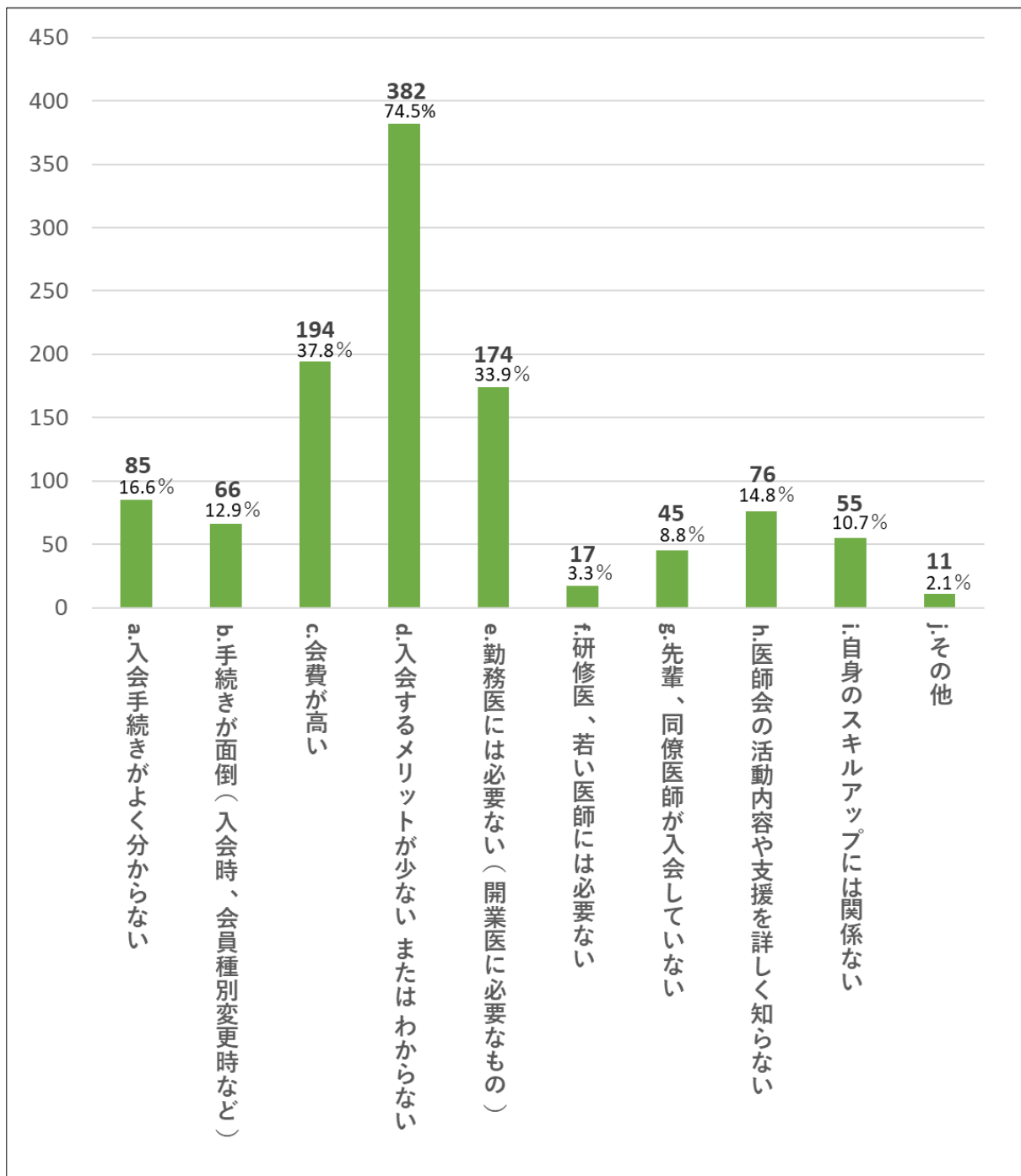
6. 入会の経緯は下記のうち何ですか？（269 件の回答）



入会の経緯は、a. 自らの意思で入会した方(16.7%)は少数である。一方、d. 病院の規定により自動的に入会(61%)、b. 上司に勧められて入会(約 15%)といった方が大部分である。

※5で「b. 非会員」「d. 今後入会する予定はない」と答えた方にお尋ねします。

7. その理由は何ですか？（複数回答可）（513件の回答）



勤務医の約60%は未入会であるが、その理由として、d. 医師会へ入会するメリットが少ない(74.5%)、e. 勤務医に必要ながない(33.9%)、h. 活動内容を知らない(14.8%)といった回答が多く、その他 c. 会費が高い(37.8%)、a. 手続きがわからない(16.6%)、b. 手続きが面倒(12.9%)といった理由である。

## 【考 察】

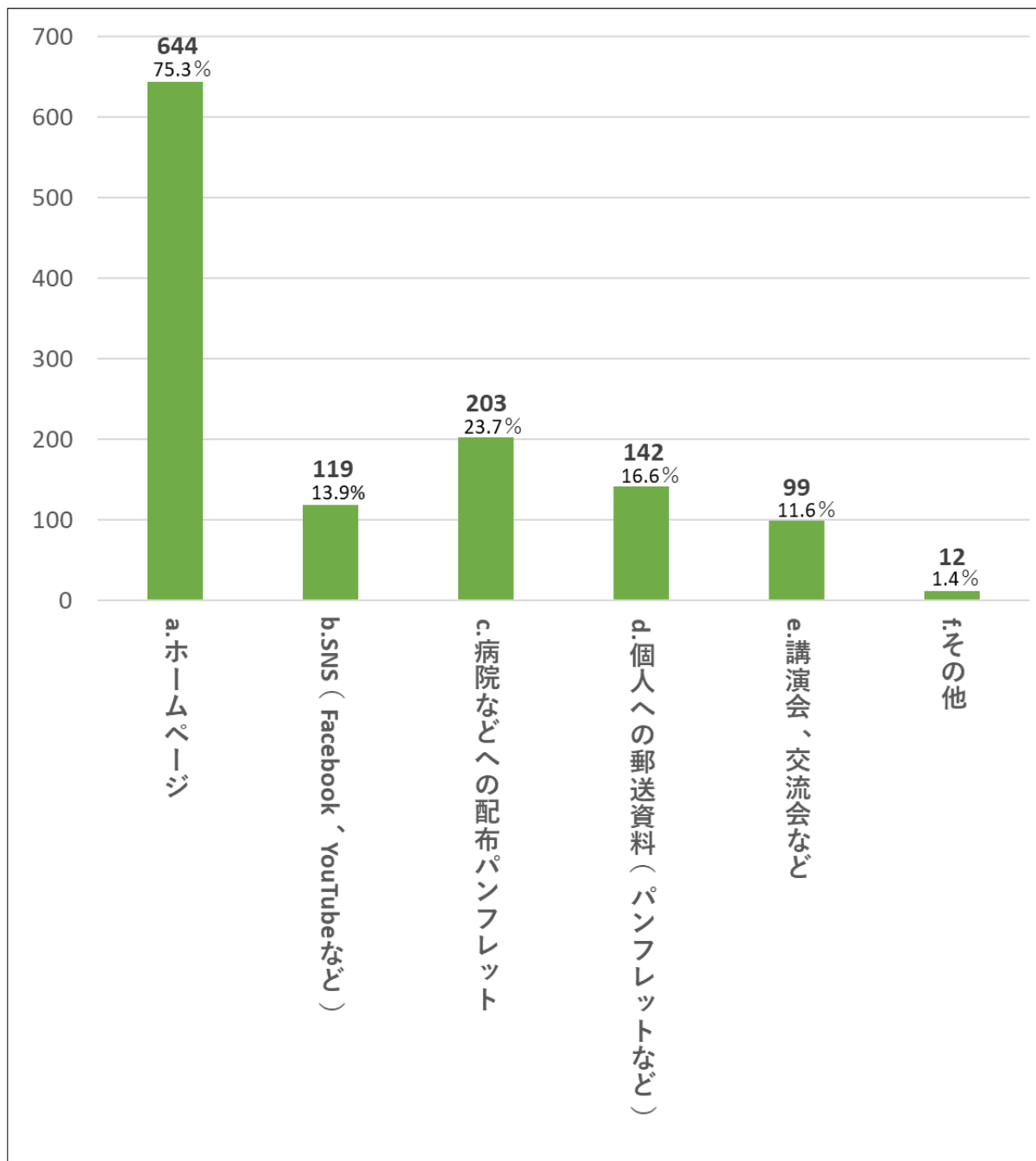
勤務医の医師会入会が進まない理由として、医師会の活動内容が知られておらず、その結果、勤務医にとっての医師会入会のメリットが理解されていないことが大きな原因と考えられる。また、会員の入会の動機には主体性がないことが多く、そのような場合でも入会後に医師会のメリット、意義を理解し、会員継続に至っているものと想像できる。このことから、勤務医の加入を進める方策として、①医師会活動、会員のメリット等を勤務医へ周知すること、②初期研修医、専攻医の段階で自動的（簡素化された手続き）に入会する仕組みを構築することが有効な手段である。



○問 8, 9 - 1) ~ 3)

【結果の概要】

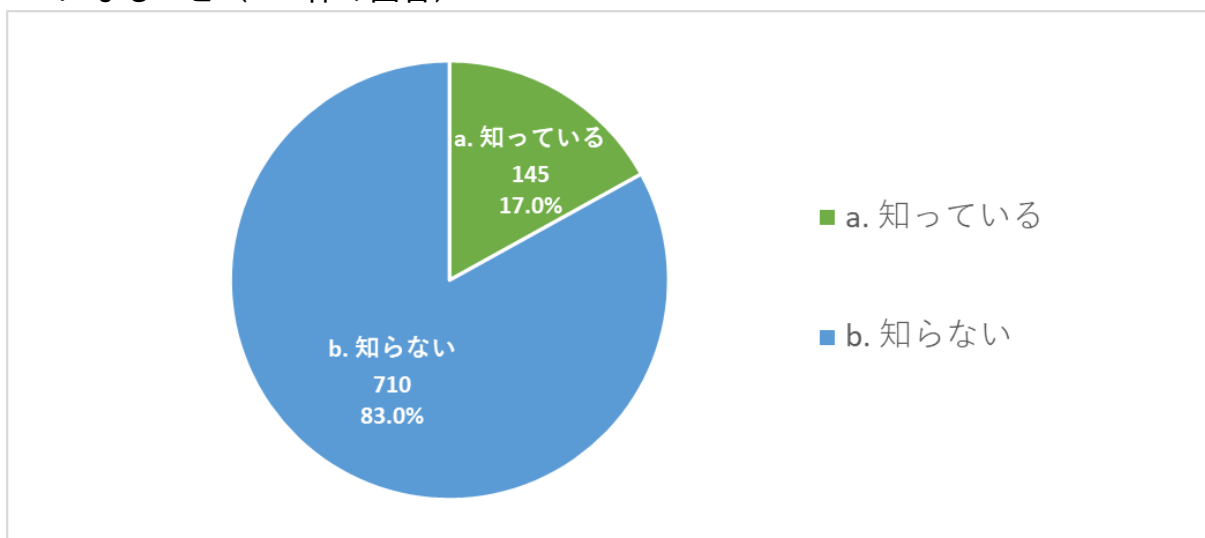
8. あなたが医師会の情報を得るならば、どのような方法で入手しますか？  
(複数回答可) (855 件の回答)



a. ホームページ (75.3%) が圧倒的に多く、次に c. 病院などへの配布パンフレット (23.7%) が多く、d. 個人への郵送資料 (パンフレットなど) (16.6%)、b. SNS (Facebook、YouTube など) (13.9%)、e. 講演会、交流会など (11.6%) と続いた。少数ではあるが、医師会の情報を得る必要がないとの意見もあった。

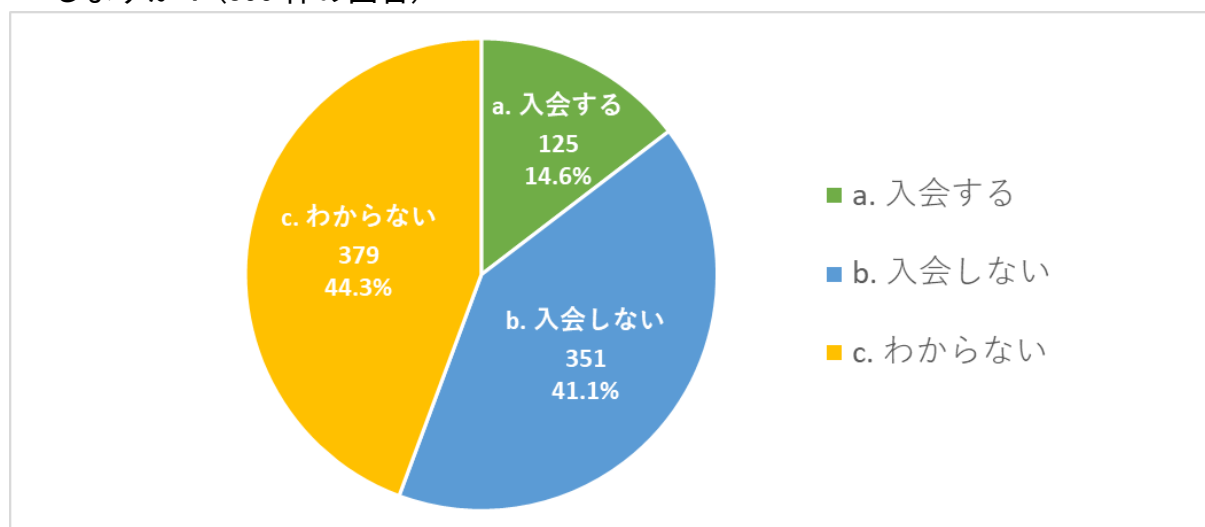
9. 医師会についてお尋ねします。

- 1) 令和5年度より医学部卒業後5年間は会費減免の対象となり、医師会の会費が無料になること（855件の回答）



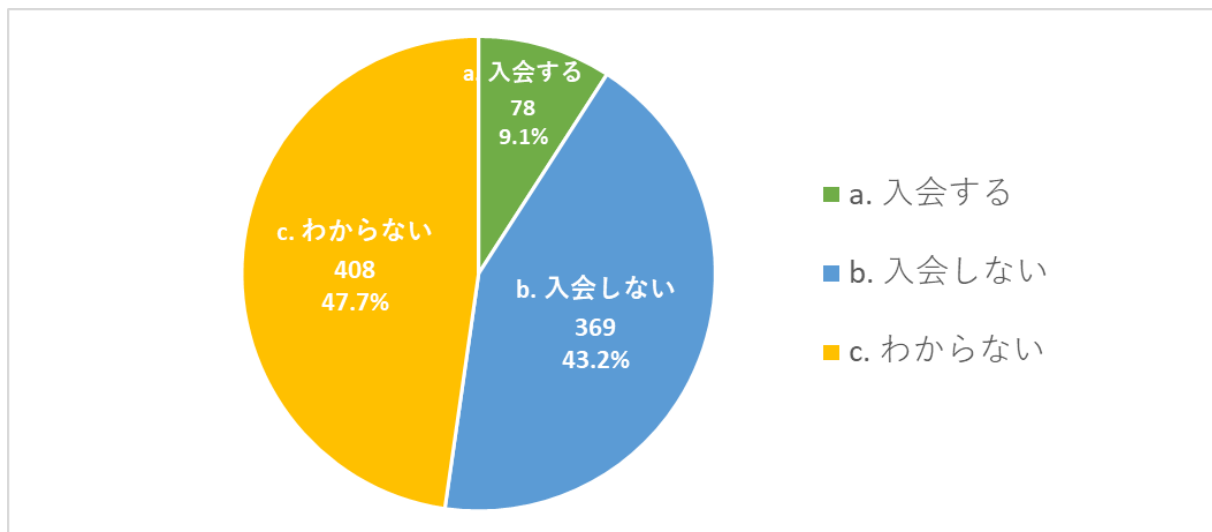
a. 知っている（17%）はわずかで、b. 知らない（83%）がほとんどであった。

- 2) 会費減免期間が医学部卒業後5年間に延長となることから、医師会への入会はどうしますか？（855件の回答）



a. 入会する（14.6%）は少なく、b. 入会しない（41.1%）が多かった。

3) 医学部卒後6年目以降の会費減免期間でなくなった場合、医師会への入会はどうしますか？(855件の回答)



a. 入会する (9.1%) はさらに少なく、b. 入会しない (43.2%) が多かった。

【考 察】

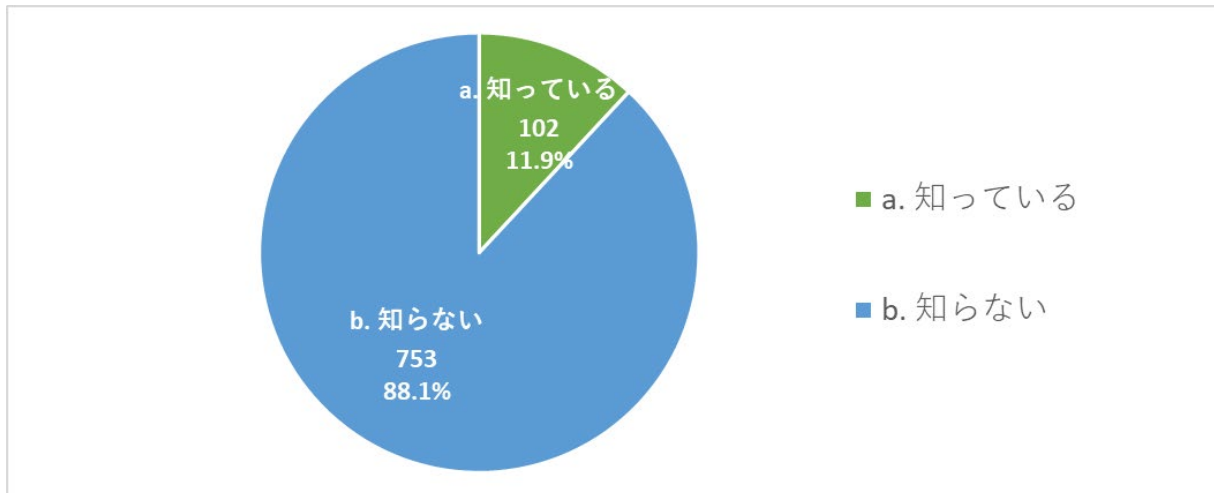
ホームページからの入手が圧倒的に多いので、SNSも含めた電子媒体の充実を図る必要があると考える。しかし、パンフレットなどの紙媒体からの入手もある程度いるので、電子媒体、紙媒体両方の情報伝達をこれからも行っていく必要がある。

令和5年度より医学部卒後5年間は会費免除の対象となり、医師会の会費が無料になることをほとんどの人が知らず、医師会からの情報伝達がうまくいっていなかったことが判明した。また、会費減免期間の延長が入会の促進にはなっていないことも判明した。今後、会費減免期間の延長の周知徹底とメリットについての説明を丁寧にしていく必要があると考える。

○問9-4) ~ 8)

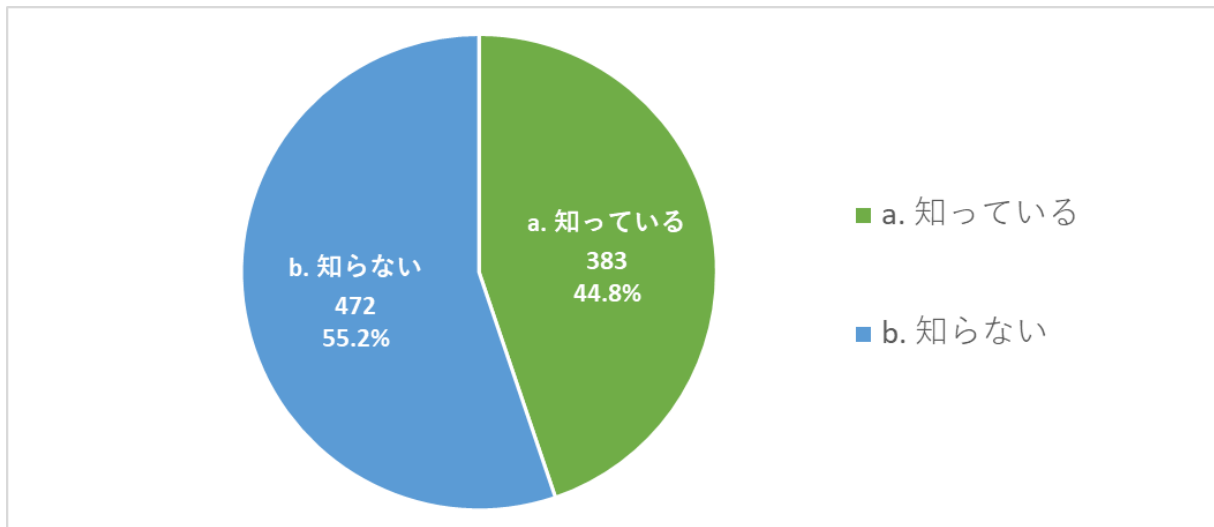
【結果の概要】

- 4) 日本医師会の特典として、30歳までは医賠償保険に年間15,000円で加入できること (855件の回答)



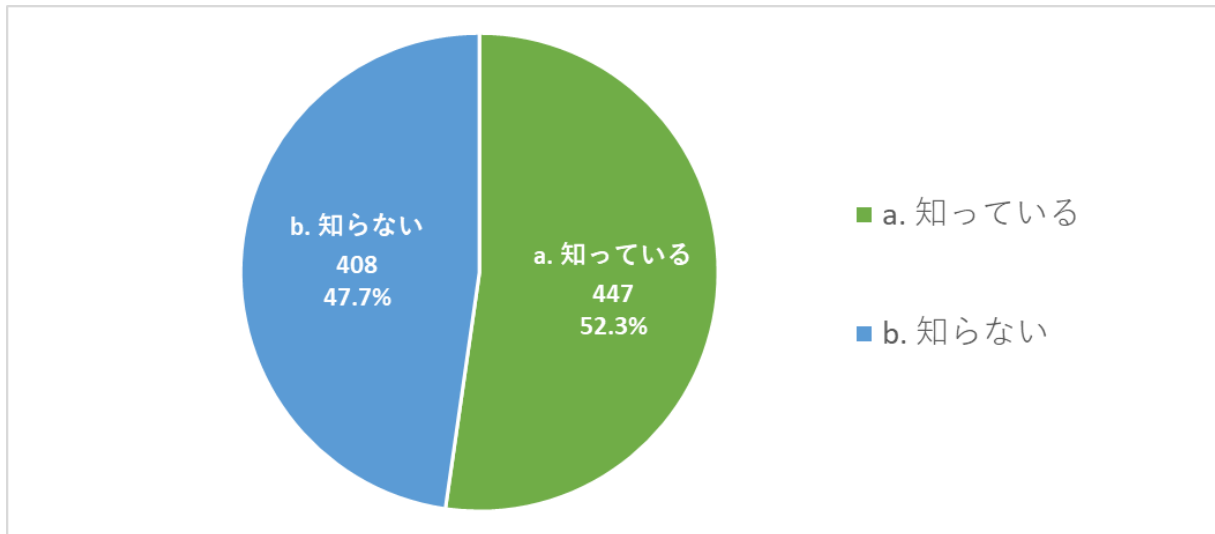
「a. 知っている」は11.9%、「b. 知らない」は88.1%と「知らない」が約9割を占めた。

- 5) 広報誌や講演会などからさまざまな情報を得ることができること (855件の回答)



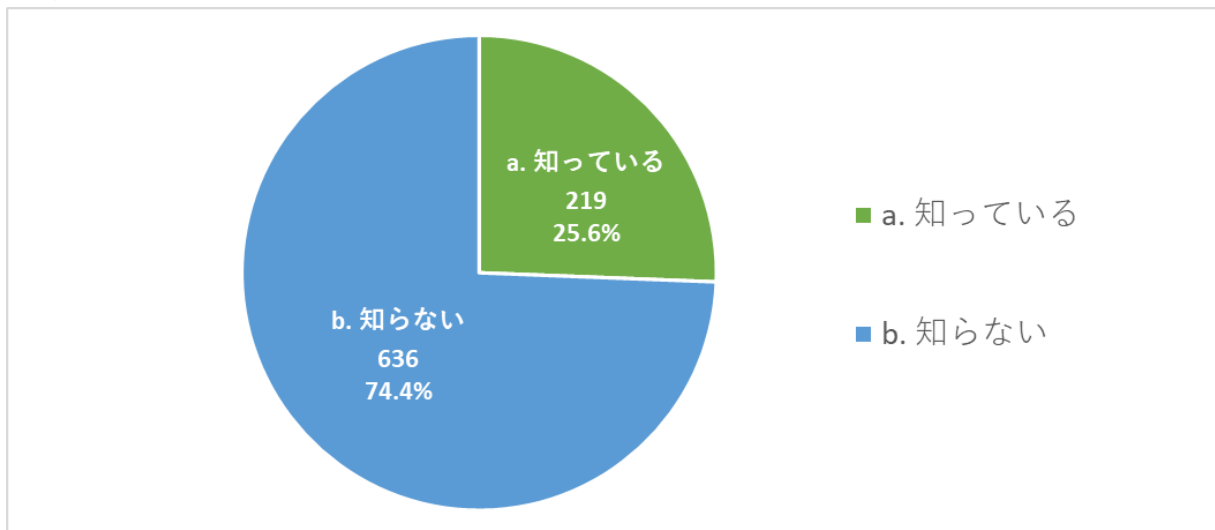
「a. 知っている」は44.8%、「b. 知らない」は55.2%と「知らない」が半数を上回った。

6) 生涯教育制度により、生涯にわたって自らの知識を広げ技能を磨き、常に研鑽できること（855件の回答）



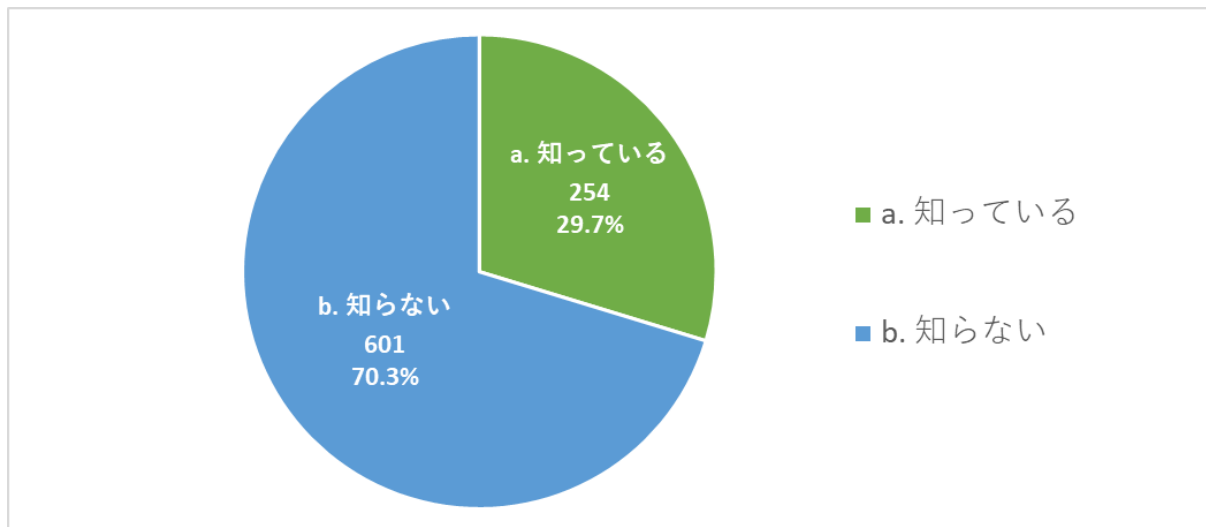
「a. 知っている」は52.3%、「b. 知らない」は47.7%と「知っている」がわずかに上回った。

7) 転職、勤続年数や勤務形態の変化などによって収入が変動しても、支払う保険料は変わらない医師国保に加入できること（855件の回答）



「a. 知っている」は25.6%、「b. 知らない」は74.4%と「知らない」が約3/4を占めた。

8) 医師協同組合を通じて、ローン・車・生命保険等、各種指定店での優遇が受けられること（855 件の回答）



「a. 知っている」は 29.7%、「b. 知らない」は 70.3%と「知らない」が約 3/4 を占めた。

【考 察】

医師会の有益性に関する若手勤務医の認知度を確認する項目であるが、結果は広報誌や講演会からの情報収集や生涯教育制度など学問的な内容に関しては約半数が認識しているが、医師国保、医師協同組合など臨床業務と関連の少ない項目では 70%以上が認識していないことが確認された。さらに医師会の医賠償保険に関しては約 90%が「知らない」と回答しており、認知度が極めて低いことが示された。

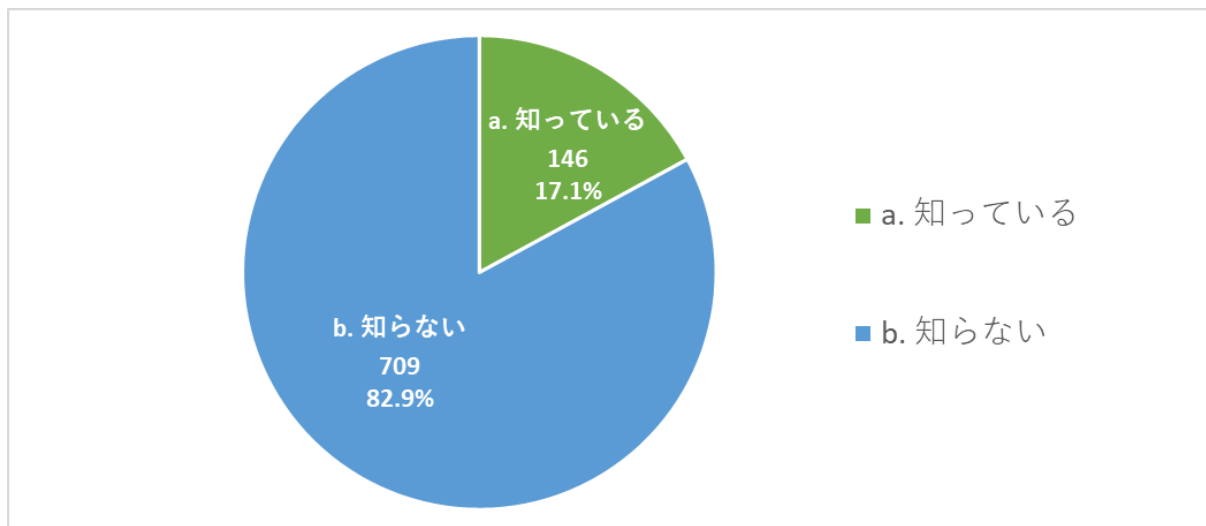
今回の結果より若手勤務医は臨床業務に直結する医学的知識や技術の習得に関する項目以外には関心が低いと考えられる。特に認知度の低い医賠償保険は医師会以外でも対応できるものであり、他社との差別化を明確にして、医師会の優位性をよりアピールすることも必要と考えられる。医師国保や医師協同組合も医師会員のみの特権であるが認知度は低く、生涯教育制度の認知度も 5 割程度と決して高くはない。これから医師会活動に勤務医を参加させるためには、これら医師会の有益性の認知度をより上げることが必要と考えられる。そのためには医師会の概要説明を、まずは学生を対象に始め、勤務医になっても様々なタイミングや方法で度々、説明する機会を設けることも必要と考えられる。

○問 10－ 1) ～ 3)

【結果の概要】

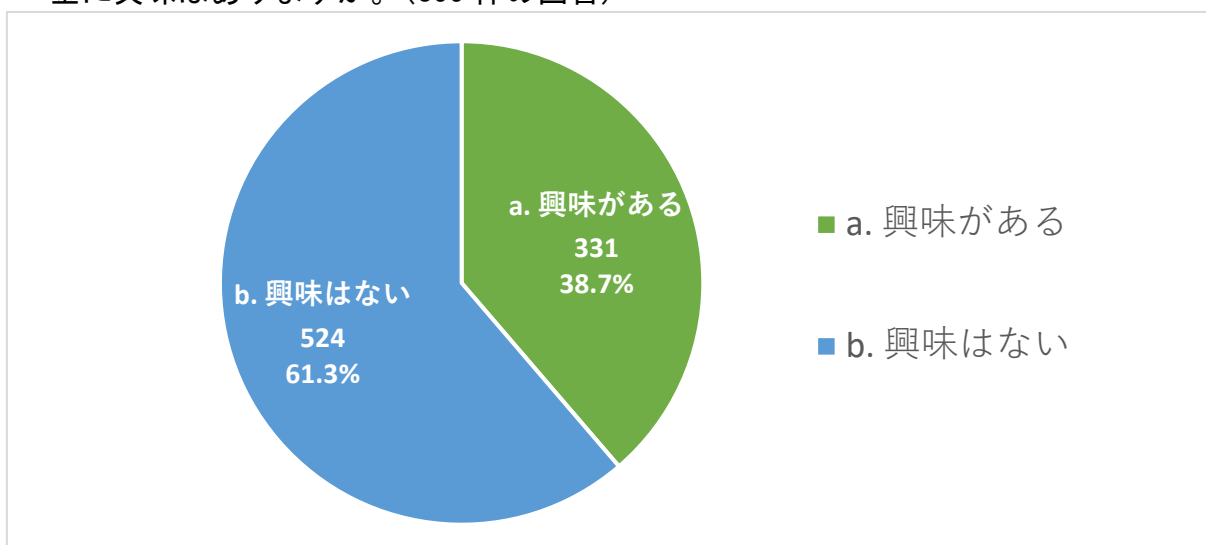
10. 日本医師会が窓口となっている私的年金として医師年金があります。この年金は一生涯受け取れ、年金保険料の加算は自由で、受け取りは4タイプ（15年保証期間プラス終身型（B1）、5年・10年・15年確定年金型（B2・B3・B4））の中から選ぶことができます。

1) このような年金をご存知でしたか。（855件の回答）



「このような年金をご存知でしたか」という質問に対して、17.1%のみが a. 知っていると回答した。

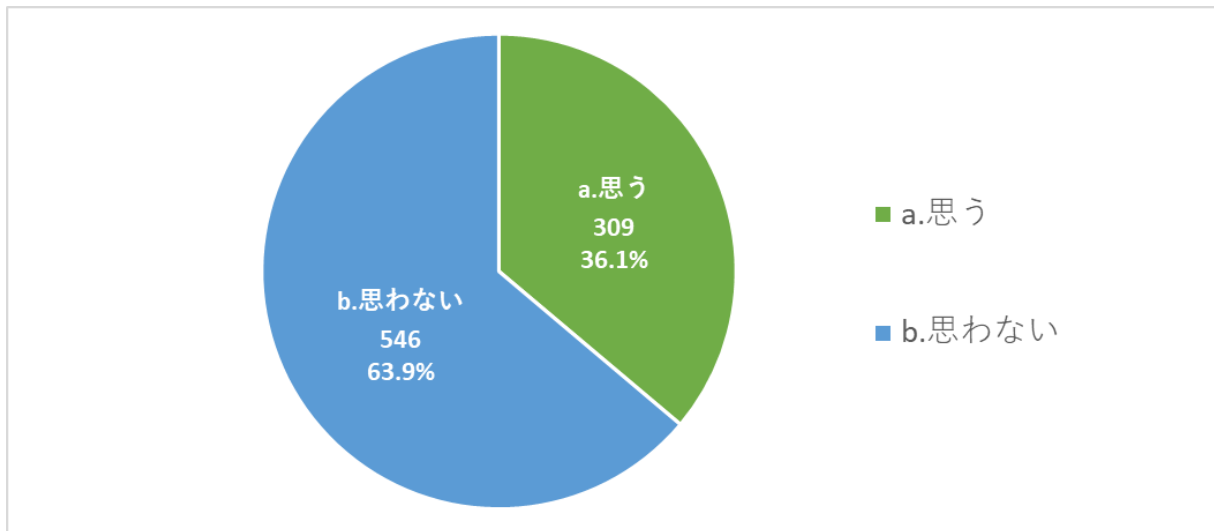
2) 医師年金の予定利率は1.5%（令和4年10月1日現在）で、保険料が複利で運用されることから、早く始めれば始めるほど高い効果が期待できます。このような年金に興味はありますか。（855件の回答）



「医師年金の予定利率は1.5%（令和4年10月1日現在）で、保険料が複利で運用されることから、早く始めれば始めるほど高い効果が期待できます。このような年金

に興味はありますか」という質問に対しては、38.7%は a. 興味があると回答した。

### 3) 詳しく知りたいと思いますか。(855 件の回答)



「詳しく知りたいと思いますか」という質問に対しては、36.1%は a. 詳しく知りたいと思うと回答した。

#### 【考 察】

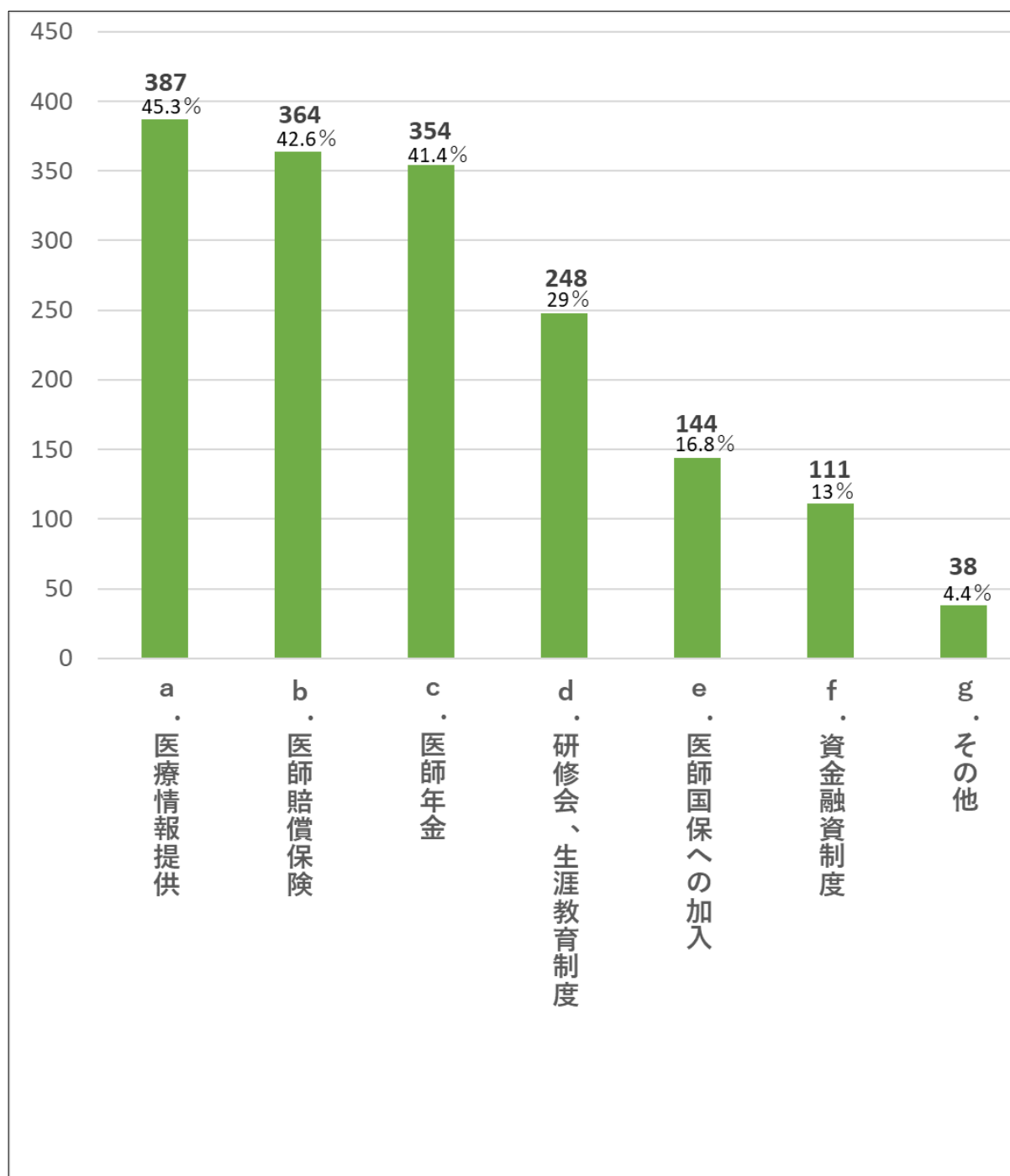
以上の結果を見ると、問 10-1) のように、ごく一部の勤務医のみ、医師年金の存在を知っているのみであり、恐らくは、比較的経験の長い中年以降の勤務医が知っているものと思われる。しかし、今回のように、その存在を提示することで、勤務医の約 2 割は医師年金に新たに興味を示しており、特に若い世代ほど、医師年金による老後の総収入がその間に支払った医師会費を大きく超えることが予想されることより、若い世代に積極的に広報することが有効であることが示唆された。



○問 11, 12－ 1) ～ 2)

【結果の概要】

11. 医師会の支援事業で利用したいと思われるのはどれですか(複数回答可)(855 件の回答)



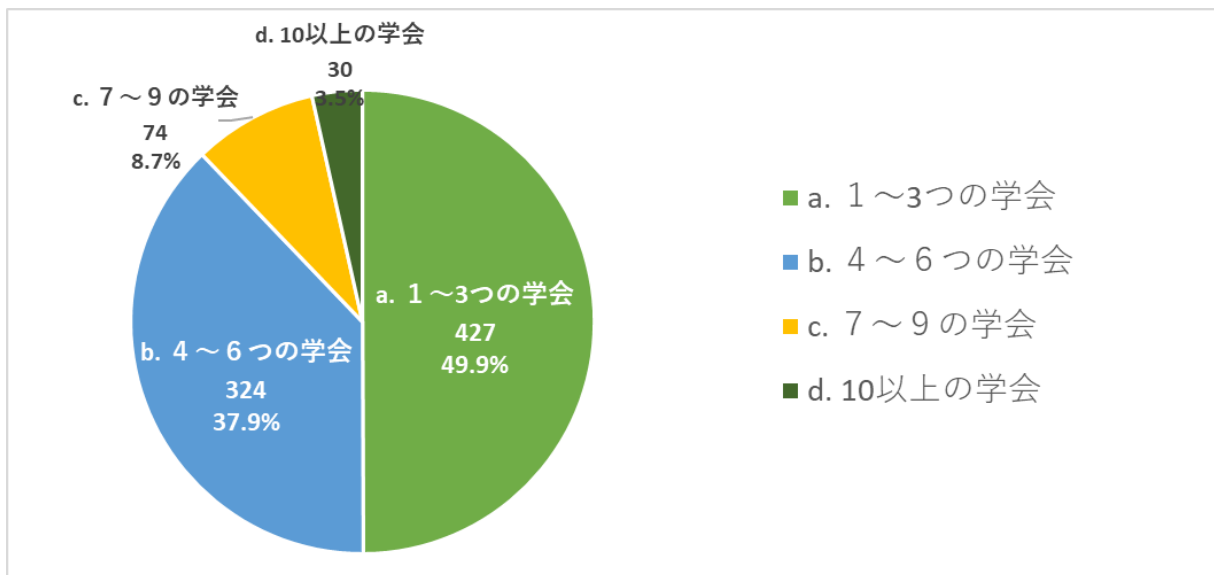
a. 医療情報提供、b. 医師賠償保険、c. 医師年金に関しては、40%を超えた対象者が利用したいとの回答であった。医療情報に関しては、厚生労働省はじめ行政からの情報通達や折衝の窓口となっている医師会のイメージや、医師賠償保険・医師年金に関しては福利厚生に関して医師会からの有益情報を得たいことからの期待を示すもの

と考えられる。利用したいとの回答が低かった事項に関しては、他の団体などから情報が得られやすく、既に対象者は利用しているか関心が低いことが推察される。

施策等の提案 ⇒ 期待される提供内容へ広報の重点化をはかるべきではないか。

## 12. 勤務医の先生に所属学会についてお尋ねします。

### 1) 現在いくつの医学会に所属していらっしゃいますか。(855件の回答)

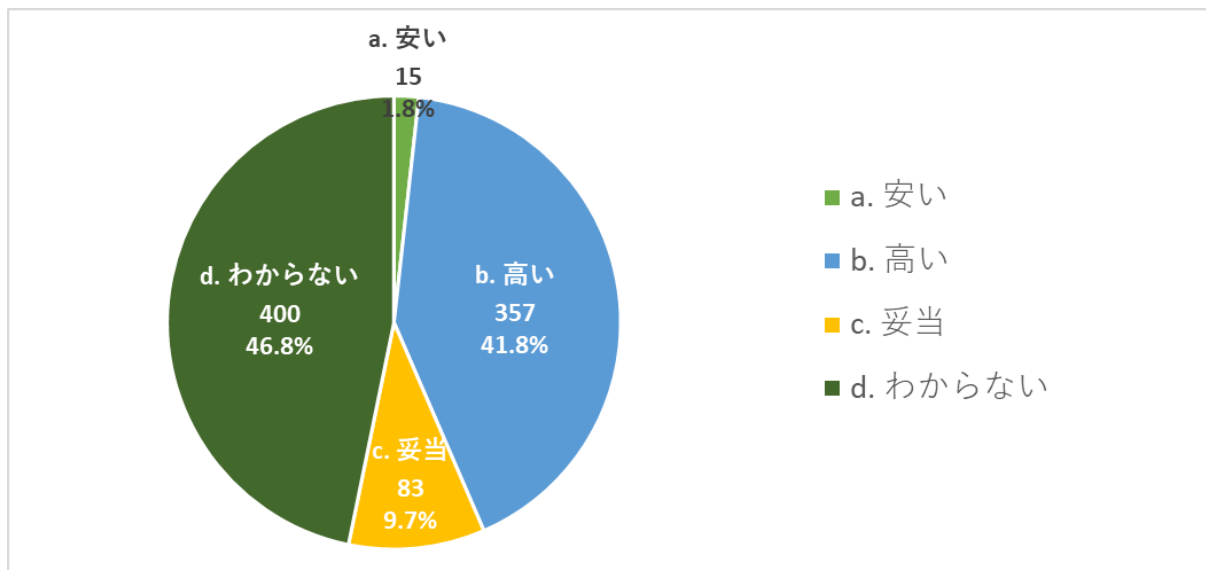


通常約半数の対象者が、a. 1～3つの学会に所属していた。37.9%がついでb. 4～6つの学会に所属していた。

#### 【考 察】

年齢やキャリア形成に関する要因が足りないのではないか。専門医取得し勤務医として管理職を得た場合と、勤務医として訪問や家庭医として対応するのでは全く異なる。通常専門診療が固定すれば、付属的でボードに関連しない学会は退会するように推察する。

2) 医師会と医学会では組織の性格が異なりますが、所属学会の年会費と比べた場合  
医師会の年会費はどのように感じますか。(855 件の回答)



医師会と医学会では組織の性格が異なりますが、所属学会の年会費と比べた場合にはどうか？との質問である。学術集会の医学会との単純に比較することは当然難しく、色々な背景を加味した場合には、46.8%の対象者で d. わからないと回答したのではないか。単純な比較では金額的な差異で b. 高いと回答した対象は 41.8%いたと推察される。

施策等の提案 ⇒ 具体的な医師会年会費設定根拠はあるか。提供サービス内容から納得できるものか再考が必要ではないか。

【結論・課題】

勤務医も医師会に加入できることは約 85%の勤務医が知っていたが、今回のアンケートに回答したのは勤務医全体の約 1 割であり、このような基本的なことできえ勤務医全体にどの程度知られているかは不明である。

医師会活動の広報は学生や研修医のうちに行うことが重要であり、今後そのような企画の強化が望ましいが、その際に勤務医が医師会に入会することの意義やメリットを十分に伝える必要がある。約 75%の人が医師会の情報をホームページから得ており、ホームページからの情報発信の重要性が明らかになった。SNSからの情報収集は約 14%と多くなかったが、SNSの急速な普及を考えるとSNSの充実も今後重要性を増してくることが予想される。

医師会活動の認知度は総じて高いとは言えなかったが、たとえ認知されていたとしても認知度が高いから医師会に入会したいと思うとは限らず、何をもって医師会に入会したいと思うかについての検討が必要である。それを探るうえで、医師会の支援事業で利用したいものとして医療情報提供（但しその具体的な内容についてはさらなる

調査が必要)、医師賠償保険、医師年金を4割以上の人が挙げていたことがヒントとなるかもしれない。

年会費の問題も重要である。医学部卒後5年間の会費減免は総じて勤務医の間では関心が低く、減免期間終了後の継続入会にもあまり効果がないことが判明した。学会費と比べて割高感があると感じている人が比較的多いことも医師会入会の障壁となっていると考えられた。大部分の人が既に複数の学会に所属しており、それに加えてさらに医師会へ入会することは躊躇するかもしれない。例えば、先に医師会に入会しておくとその後学会入会時にメリットが生じるような仕組みづくりを検討してはどうだろうか。

今回の調査で約27%が医師会に所属していると回答したが、このうち個人で入会しているものは約30%で、約60%は勤務先の病院の規定により入会していた。医師会員となったことによりメリットを感じているか、勤務先の病院の規定がなくても医師会員をつづけるか、個人で入会した人の入会理由、などについても調査が必要である。また、自院の勤務医が医師会会員になることがその病院にとってメリットがあれば、医師会への入会を促す病院が増えることも期待できる。このような視点での検討も今後必要かもしれない。

## ● II 勤務医が医師会に望むこと（16問）

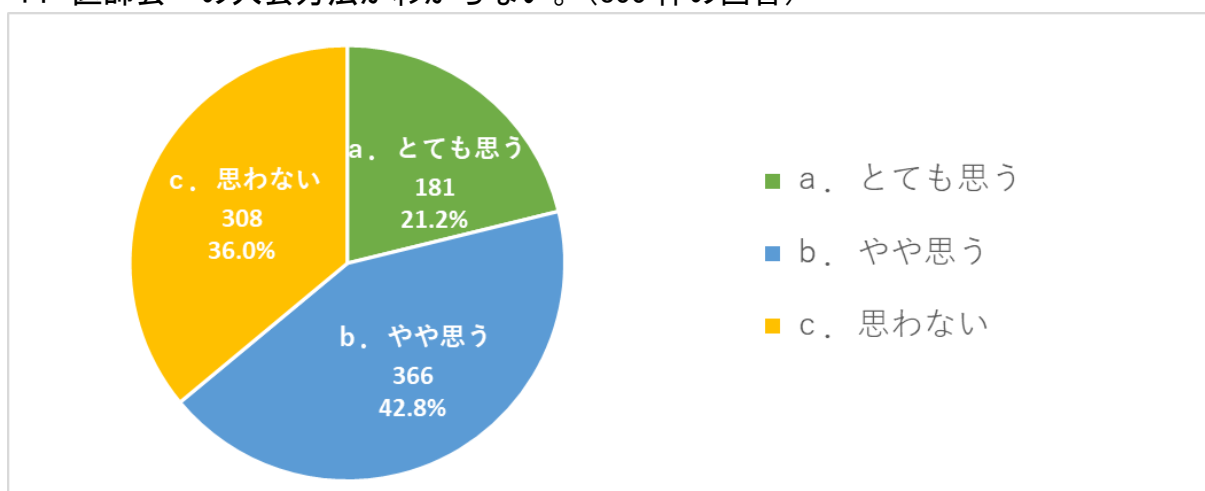
### ○問 1－5

#### 【結果の概要】

勤務医（B会員）の年会費は県医師会 26,000 円、日本医師会 28,000 円（日医医師賠償責任保険に加入すると+40,000 円、その他郡市医師会の会費が別途必要）です。（今後は卒後5年目まで会費が免除されます。）

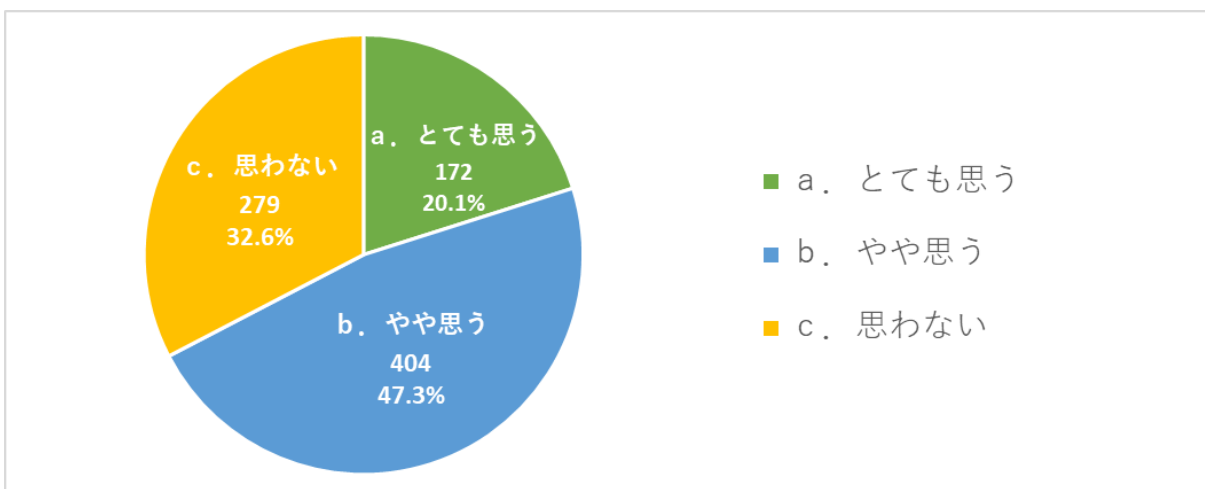
医師会に関してお尋ねします。

#### 1. 医師会への入会方法がわからない。（855 件の回答）



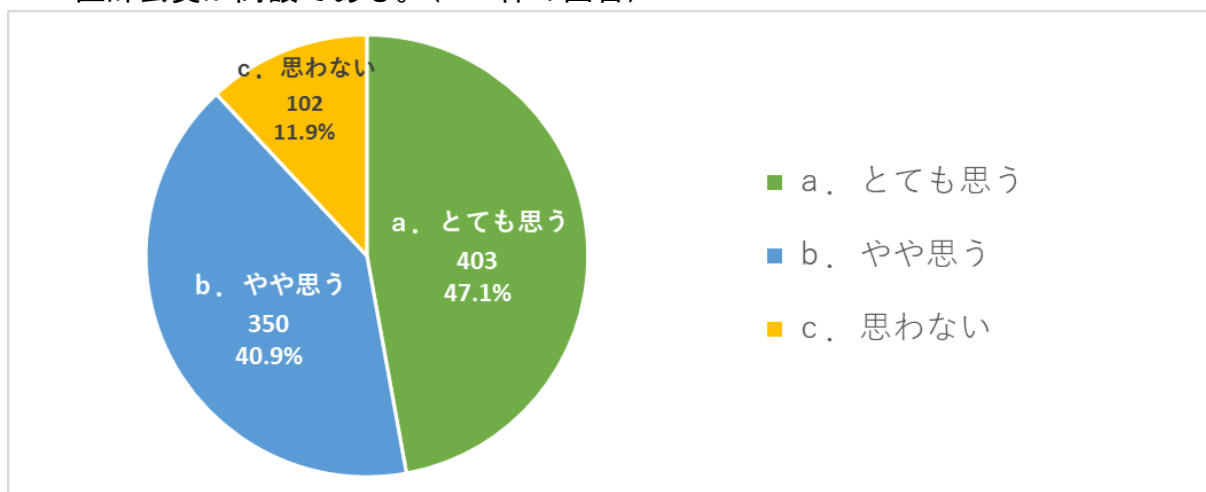
「a. とても思う (21.2%)」と「b. やや思う (42.8%)」で全体の 64%を占めた。

#### 2. 医師会への入会手続きが煩雑である。（855 件の回答）



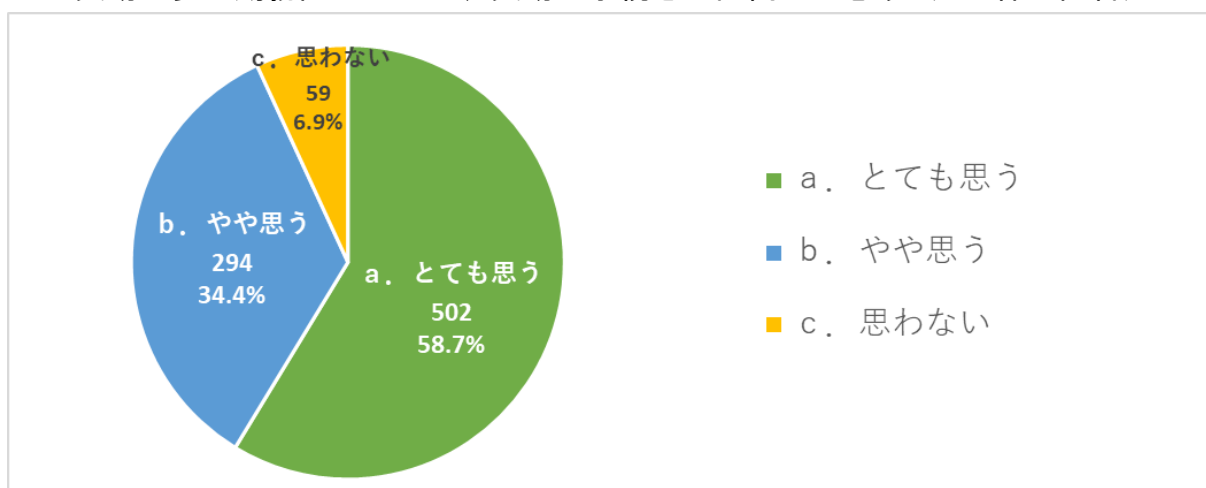
「a. とても思う (20.1%)」と「b. やや思う (47.3%)」で全体の 67.4%を占めた。

### 3. 医師会費が高額である。(855 件の回答)



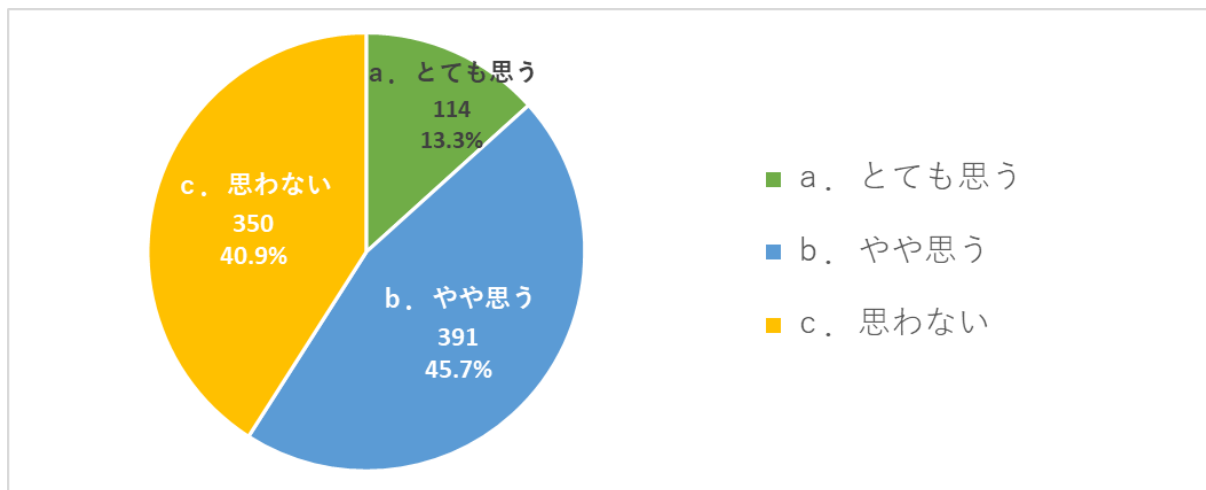
「a. とても思う (47.1%)」が最も多く、「b. やや思う (40.9%)」と合わせて 88%と大多数を占めた。

### 4. 異動が多い勤務医にとって、異動の手続きが面倒だと思う (855 件の回答)



「a. とても思う (58.7%)」が最も多く、「b. やや思う (34.4%)」と合わせて 93.1%と大多数を占めた。

5. 入会手続きが煩雑なことが入会をためらう一つの理由として取り上げられており入会をサポートするシステムがあれば医師会入会を考える。(855件の回答)



「b. やや思う(45.7%)」と「c. 思わない(40.9%)」がほぼ同数をしめた。

【考 察】

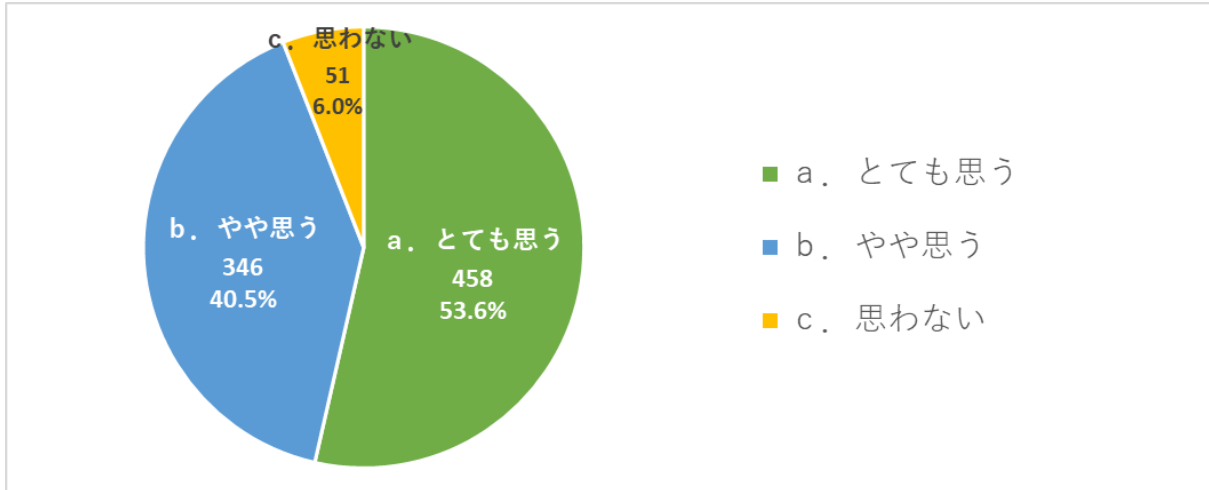
医師会への入会に関するアンケート調査結果から、「入会方法がわからない」、「入会手続きが煩雑である」、ことは約2割の医師にとって入会への高いハードルとなっているようだ。一方、入会手続きのサポートがあっても「入会したいと思わない」と答えた医師が4割を占めており、入会時のサポートだけでは解決できない他の理由があることが示唆された。

そのうち、「医師会費が高額である」ことや「異動の手続きが煩雑である」ことは、約9割の医師が同意しているところであり、「入会したいと思わない」理由の一部と考えられた。この2点は勤務医の効率のよい入会率アップにむけて優先して再考する必要があるかもしれない。勤務医師が異動時に自動的に異動先の医師会に所属を変更できるシステムができれば、C会員、B会員の中途脱落が減る可能性が示唆された。

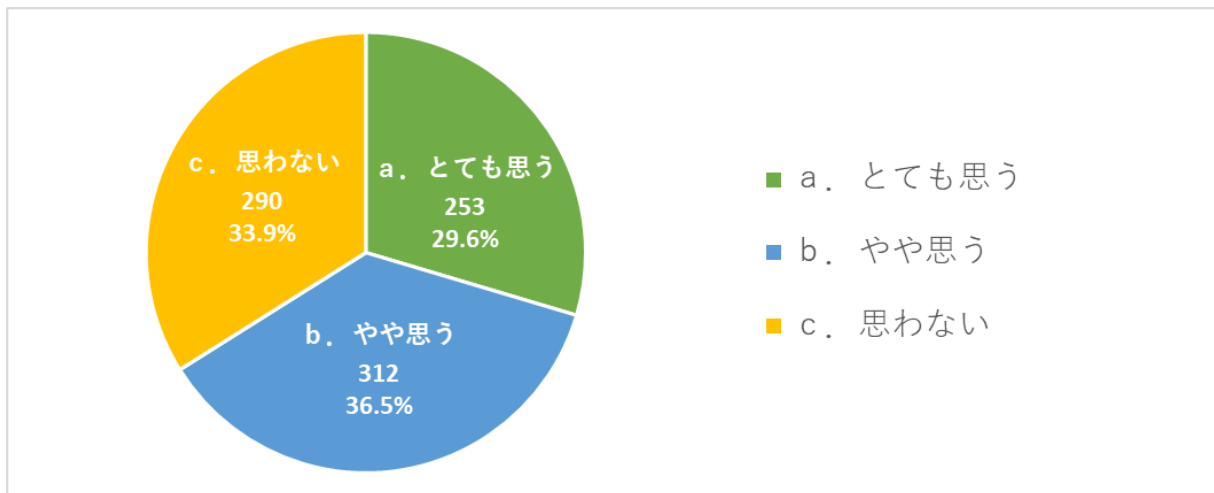
○問 6－10

【結果の概要】

6. 日本、県、郡市医師会と構造が複雑である。(855 件の回答)

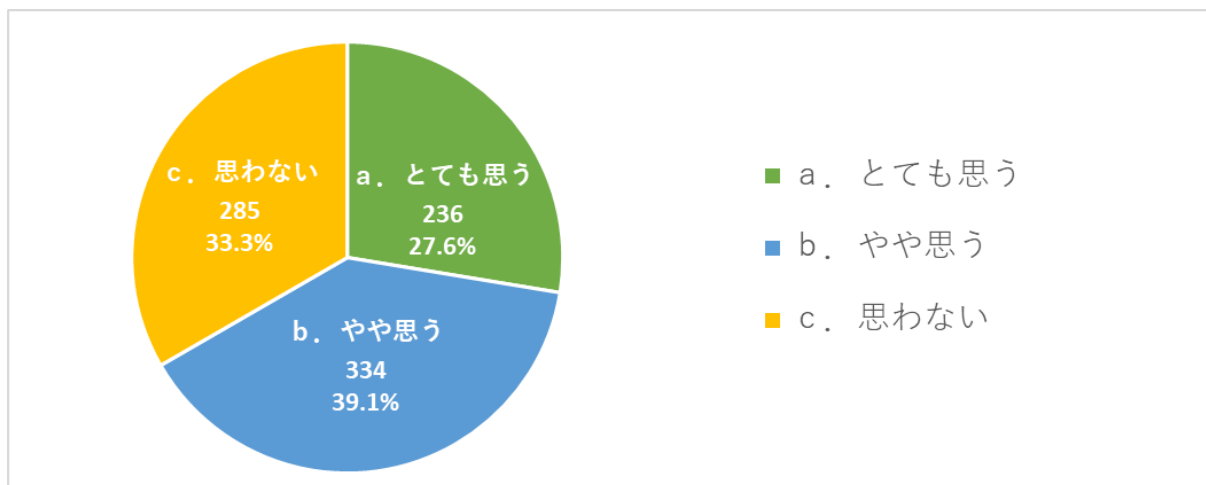


7. 身近な郡市医師会に入会すれば、自動的に県や日本医師会に入ったことにしてほしい。(医師になれば医師会への入会が必須としてほしい) (855 件の回答)

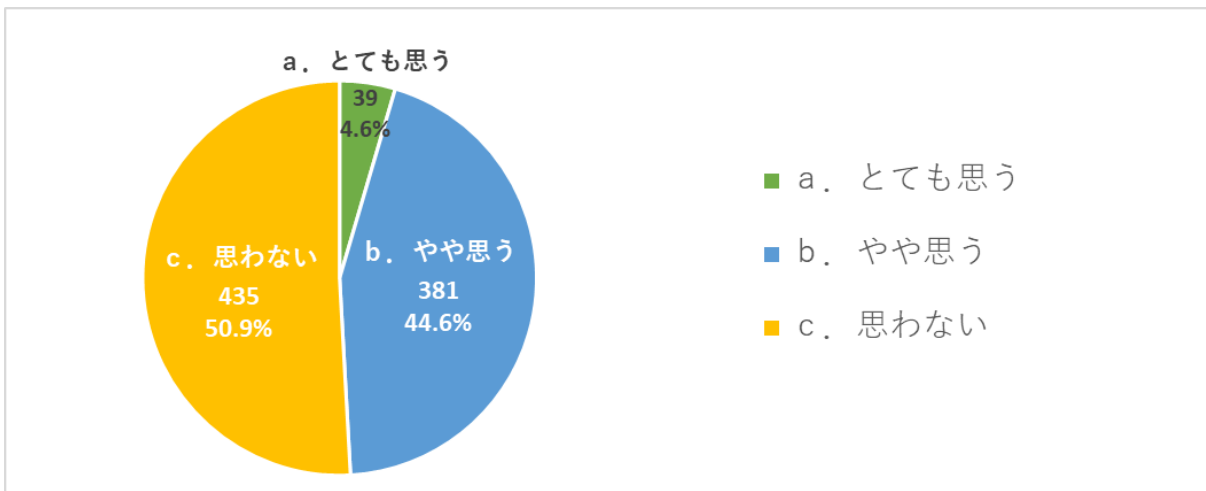




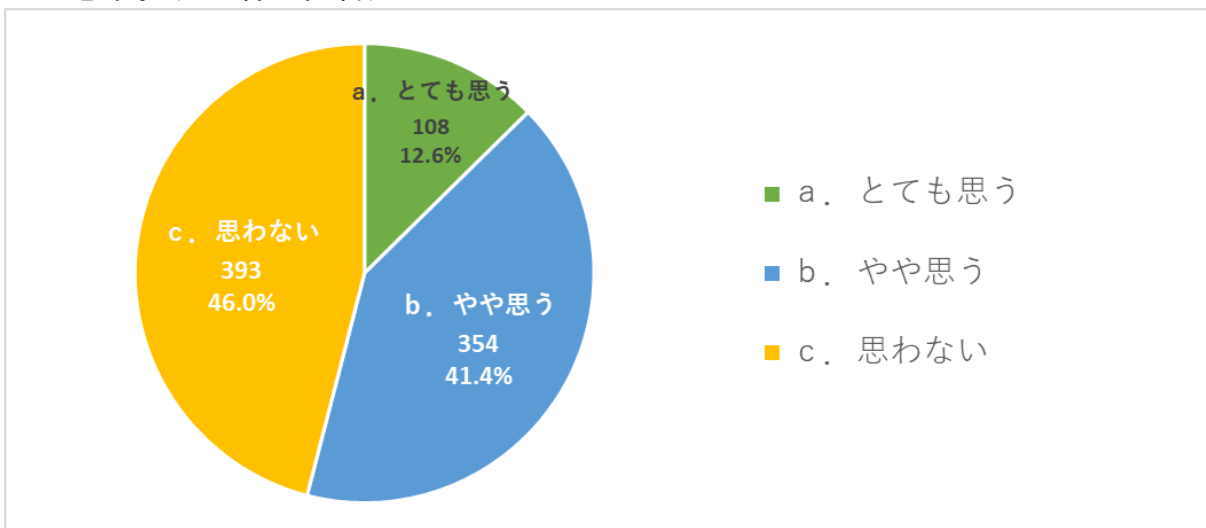
8. 医師会員は医賠償保険に自動的に入れるシステムにしてほしい。(すべて医賠償保険込みの会費設定にしてほしい) (855 件の回答)



9. 医師会の活動内容に賛同でき、自分のニーズに合う。(855 件の回答)



10. 健康スポーツ医・産業医の認定やかかりつけ医機能研修制度などを活用したいと思う。(855 件の回答)



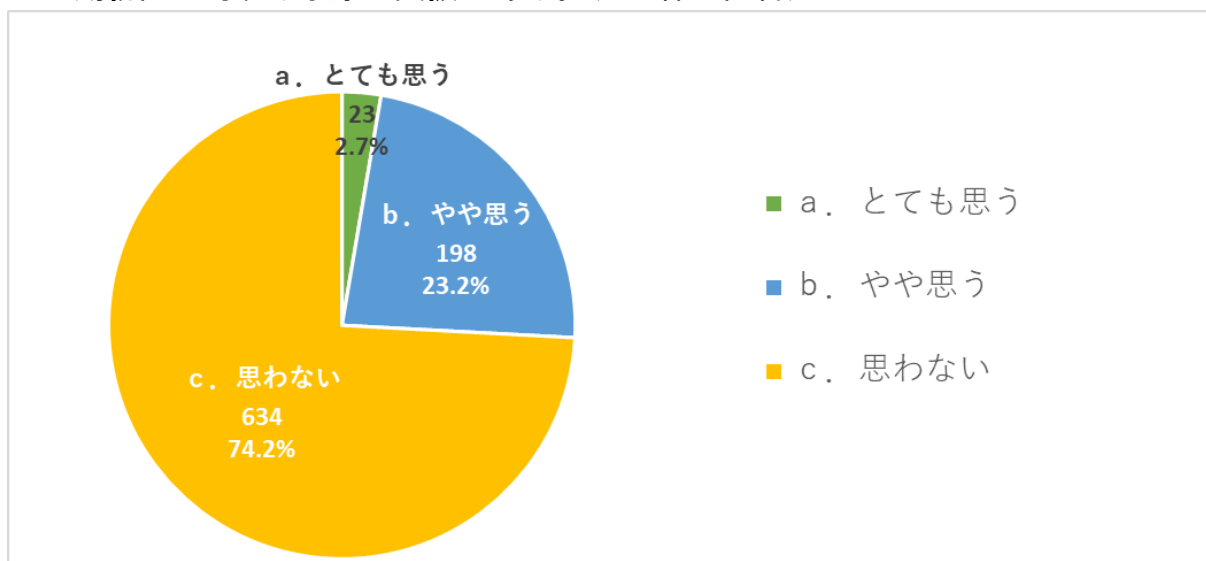
### 【結果の概要と考察】

勤務医が医師会に抱いているイメージを端的に表しているのが、問6の回答(90%以上の勤務医が「医師会の構造が複雑」と問9の回答(「医師会活動が自分のニーズに合っている」に強く賛同は5%未満)である。従って、勤務医の入会促進のためには、日本・県・郡市区(+大学)医師会の構造を明確にすると同時に入退会変更手続きの簡素化と、より勤務医のニーズを反映した医師会活動の促進と勤務医へのアピールが必要と考える。また問7では、約2/3の勤務医が、「医師になれば医師会への入会が必須としてほしい」という問に対して消極的または積極的に賛同しており、勤務医は潜在的に医師会入会には前向きに考えている可能性が示唆される。問8の「医師自賠責保険への加入」や問10の「医師会の研修制度」についても過半数の勤務医が関心を持っている。以上の結果から、1)入退会変更手続きの簡素化、2)医師会組織構造の見える化、3)より勤務医に寄り添った活動の促進と周知、をすすめることにより勤務医の医師会への関心と関与は促進されると考える。

## ○問11-13, 16

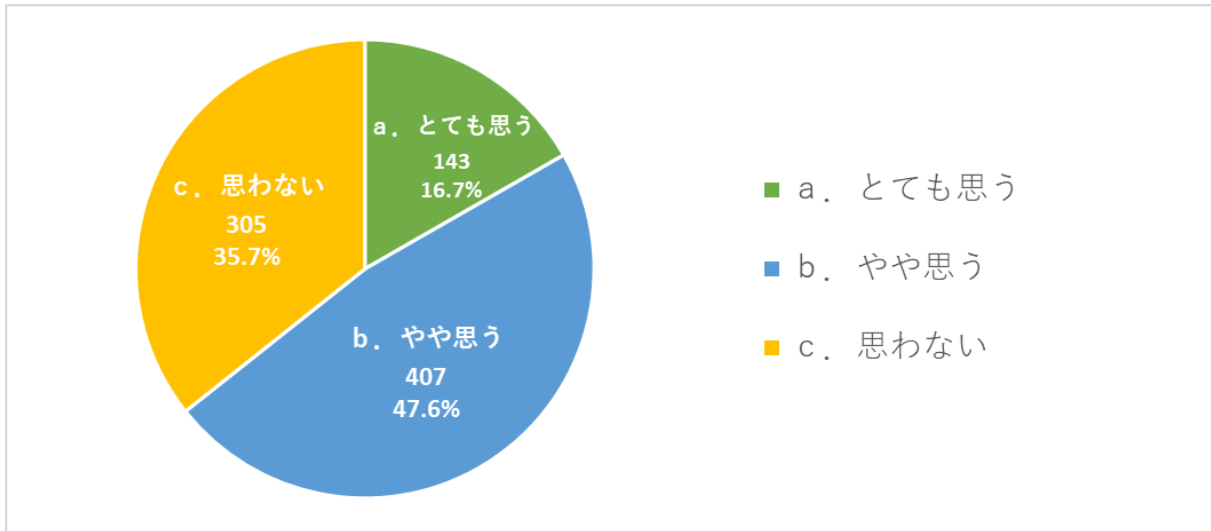
### 【結果の概要】

#### 11. 勤務医に対する手厚い支援がある。(855件の回答)



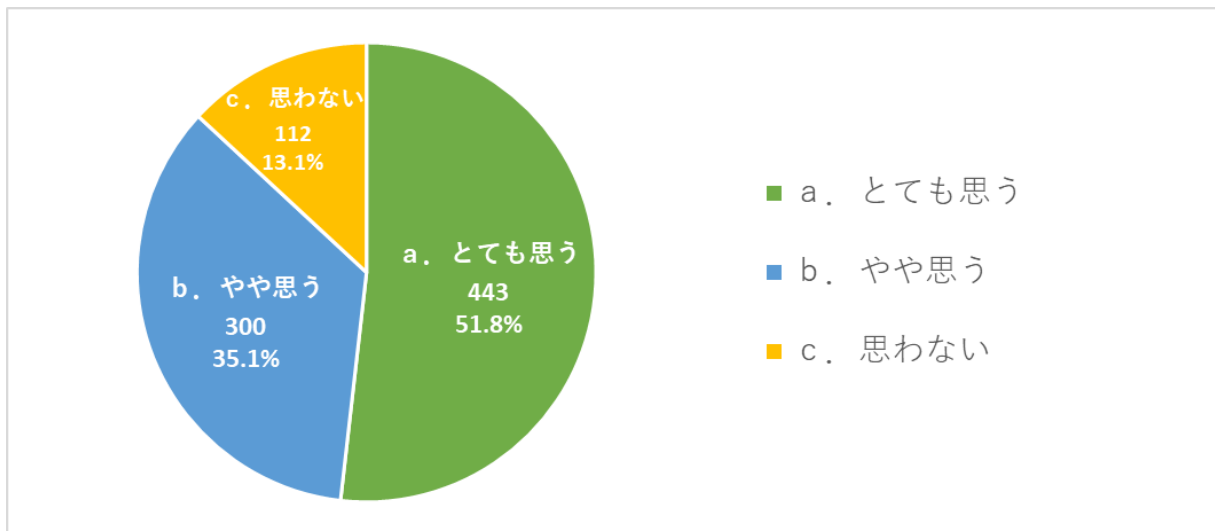
「a. とても思う」「b. やや思う」が25.9%であるのに対し、「c. 思わない」が74.2%である。

12. 勤務医での会員歴に対して、開業時のメリットがあればいい。(855 件の回答)



「a. とても思う」「b. やや思う」が 64.3%であるのに対し、「c. 思わない」が 35.7%である。

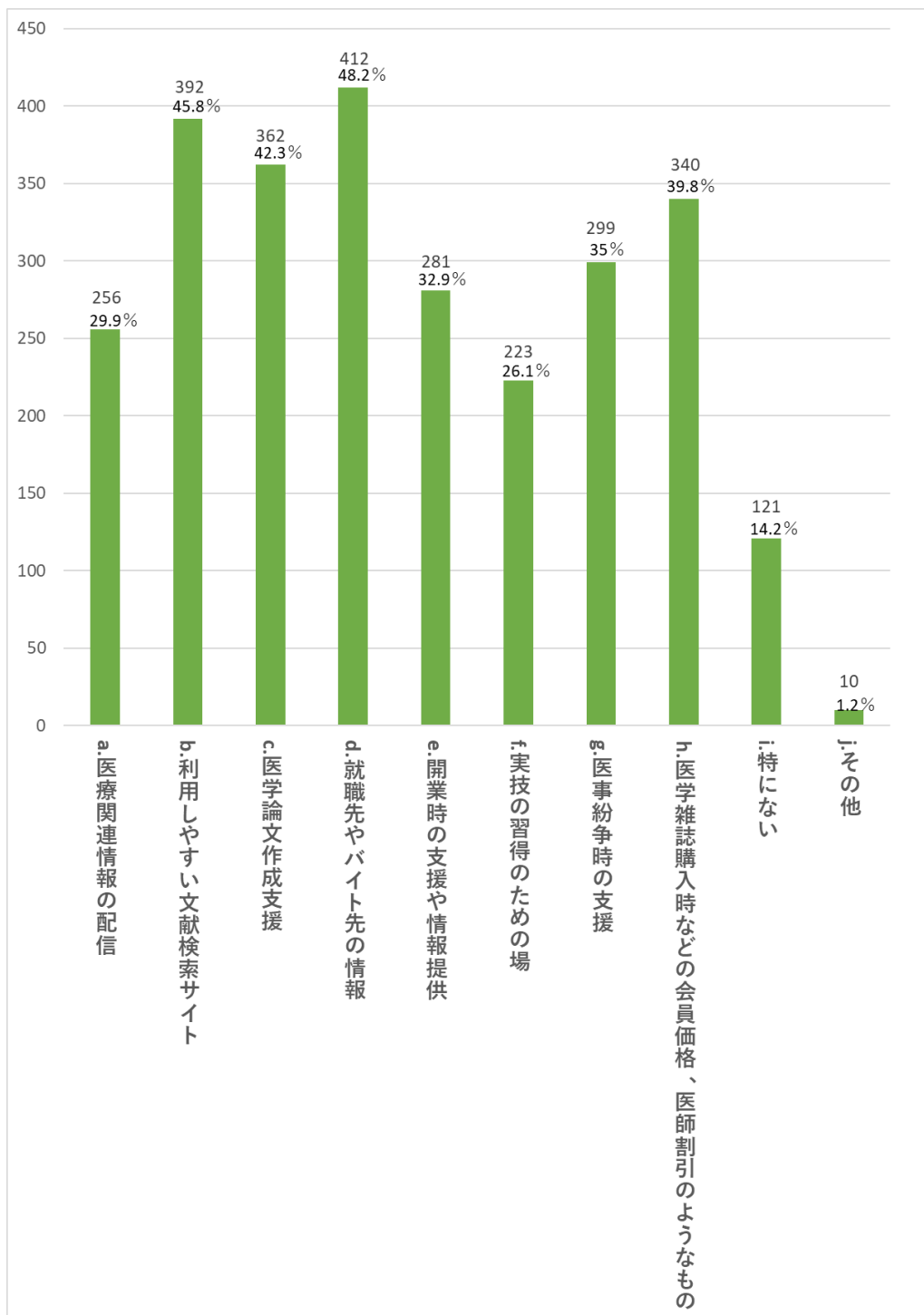
13. 医師会員であれば各種学会会費が減免される制度が欲しい (855 件の回答)



「a. とても思う」「b. やや思う」が 86.9%であるのに対し、「c. 思わない」が 13.1%である。

16. 勤務医が所属する組織以外から与えられるサービスのうち、何があったら便利と  
 考えますか？ニーズがあると思われるものを教えてください。

(複数回答可) (855 件の回答)



「d. 就職先やバイト先の情報」「b. 利用しやすい文献検索サイト」「c. 医学論文作成支援」が40%を超える。以下に「h. 医学雑誌購入時などの会員価格、医師割引のようなもの」「g. 医事紛争時の支援」「e. 開業時の支援や情報提供」「a. 医療関連情報の配信」「f. 実技の習得のための場」を挙げている。

自由記載では労働環境改善支援や生活支援に関しての内容を挙げている。

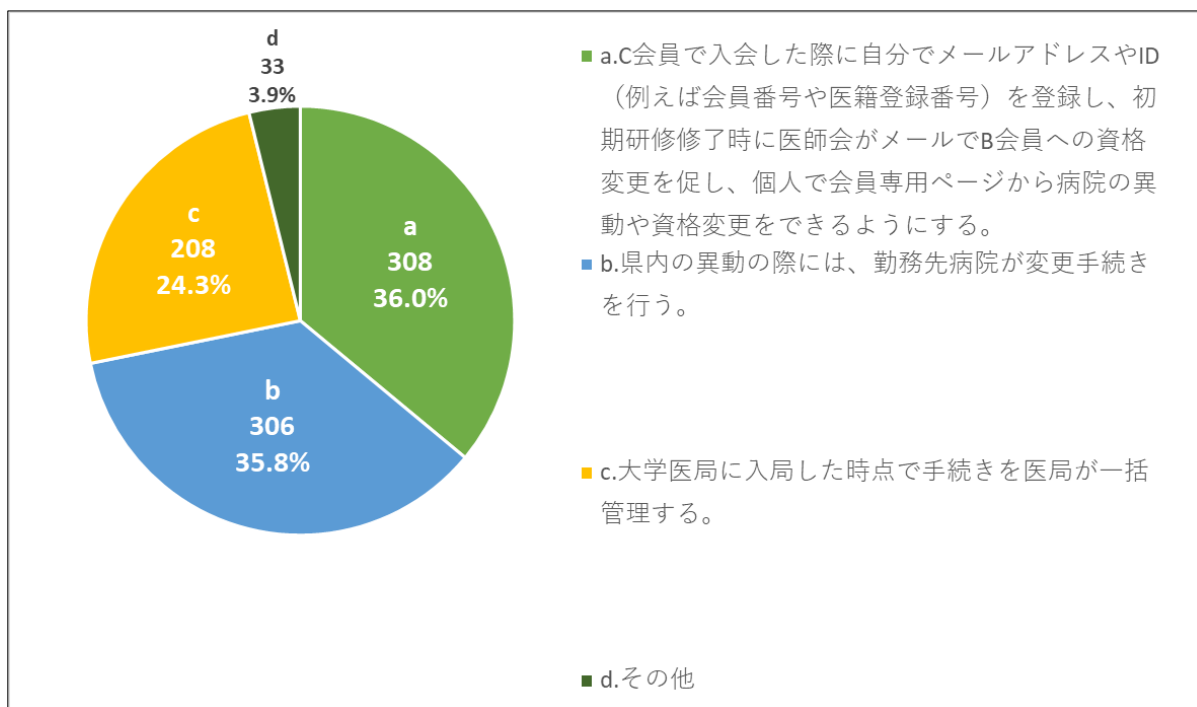
## 【考 察】

若い医師からは利用し易い魅力的な医師会としての取り組みが求められている。医学部教育、初期研修、後期研修と医師養成制度も時代とともに変化している。また、医師の働き方や仕事に対する価値観も変化していくであろう。これらの変化に医師会としても変化する組織であることが求められる。変化した医師会を力強く発信することが必要であろう。

## ○問 14－15 自由記載

### 【結果の概要】

14. 福岡県の初期臨床研修医の医師会 C 会員への入会率は 50%以上ですが研修修了時の勤務医 B 会員への移行が少ない状況です。その原因としては年会費が発生する問題の他に、後期研修（専攻課程）に入る時点で病院を異動することが多いため、医師会の入会手続きや資格変更が負担になっていることなどが考えられています。この問題を解決するためにはいくつかの方法が考えられますが、会費の問題は別としてどれが最も良いと考えられますか。（855 件の回答）



福岡県の初期臨床研修医の研修修了後の勤務医 B 会員への移行が少ない状況について、年会費以外の原因として病院異動や入会手続きや資格変更の負担が問題であるが、それを解決させる方法についてアンケートを行った。a. 自分で会員専用ページから病院の異動や資格変更ができるようにする（36%）、b. 勤務先病院が県内の異動の際に変更手続きする（35.8%）、c. 医局が大学医局入局時に一括管理する（24.3%）であった。

15. 上記1～14の設問以外で、医師会へ入会しやすくなると思われることがありましたらご記入ください。その他（自由記載）

その他の意見としては、医師会の会員区分などの複雑な制度の変更、医師会入会メリットの提示、国内異動でも勤務先病院が変更手続きを行う、などの意見がみられた。

【考 察】

以前から指摘されていたことではあるが、年会費の問題以外にも会員移行の手続きの煩雑さがネックとなっているようであり、特に異動の多い若手医師（県外への異動も含めて）にとって、手続きを簡便にしないことには勤務医B会員の移行が増えないと考えられる。

【結論・課題】

「Ⅱ勤務医が医師会に望むこと」では医師会の組織を紹介するアンケートの構成であった。結果としては、手続きの煩雑さ、高い会費、組織自体の複雑さを指摘する意見が多かった。アンケート対象とした世代と、勤務医であることより、医師会に限らず個々人の組織所属に対する価値観の違いを考えさせる結果であった。特に医師会入会でのメリットを求める意見が多く、現在の医師会活動の実態と勤務医の医師会に対する理解に多少のギャップがあると思われた。医師会の情報発信の修正を検討する必要がある。また、自由記載より参考にしたい意見として裾野会員、ネット会員登録で容易に情報を得ることができる試みなど、情報発信の手段や会費にあたる収入を他の方法で得ることができないかなど、アンケート結果に潜むヒントにも注目したい。

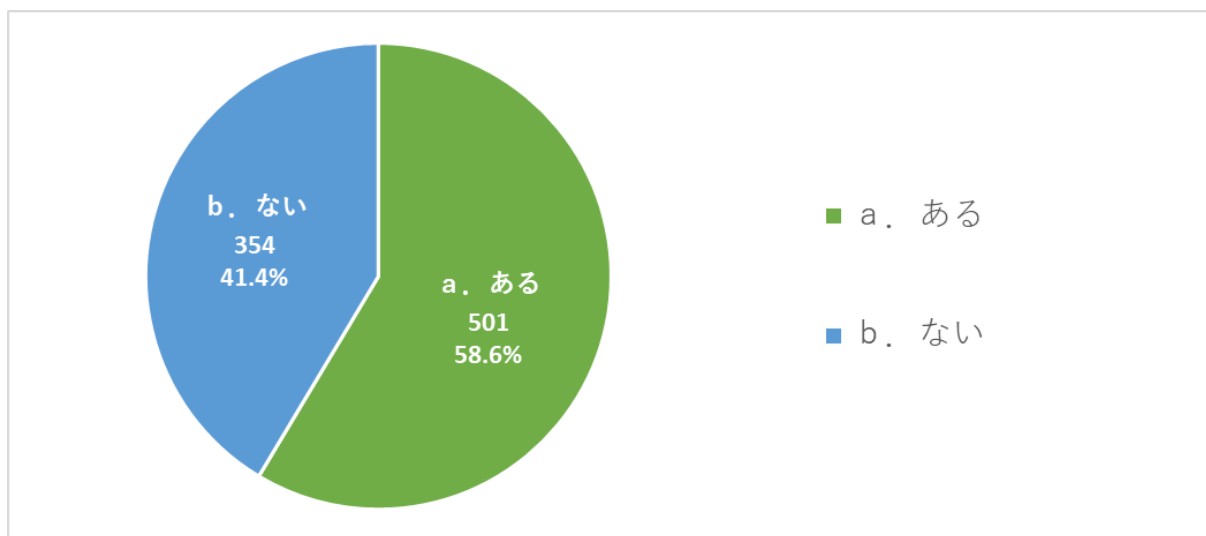
### ●Ⅲ勤務医の意見を集約する方法（3問）

#### ○問1－3

##### 【結果の概要】

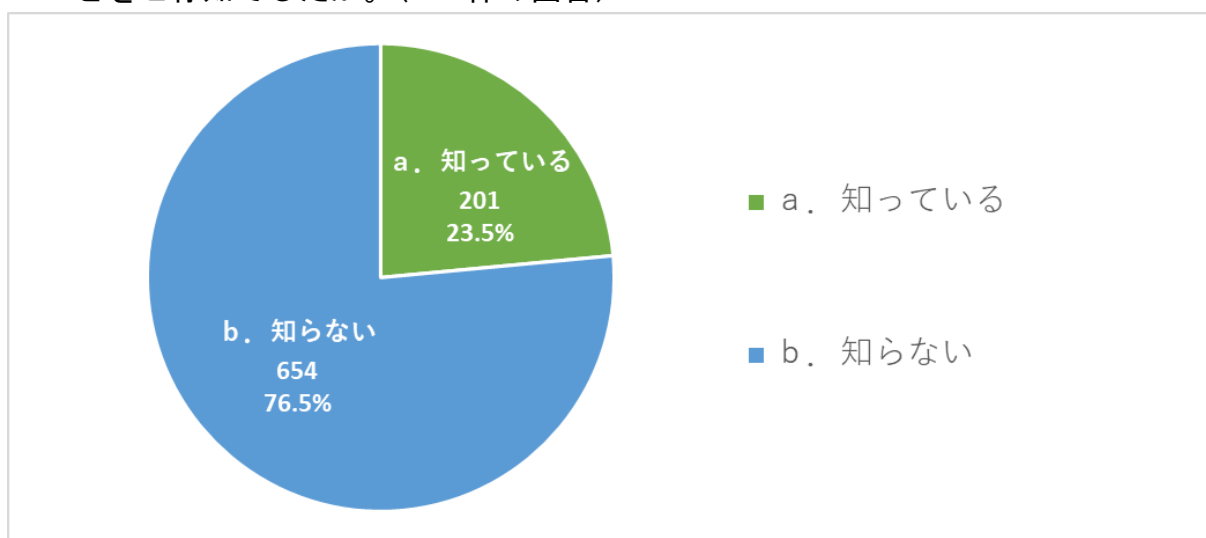
医師会は、地域の声を国や地域の医療政策の決定に迅速につなぐ活動をしています。

1. 勤務医の置かれた医療政策の状況などで、こうしてもらいたい、これはやめてほしい、といったご意見を抱かれることがありますか？（855件の回答）



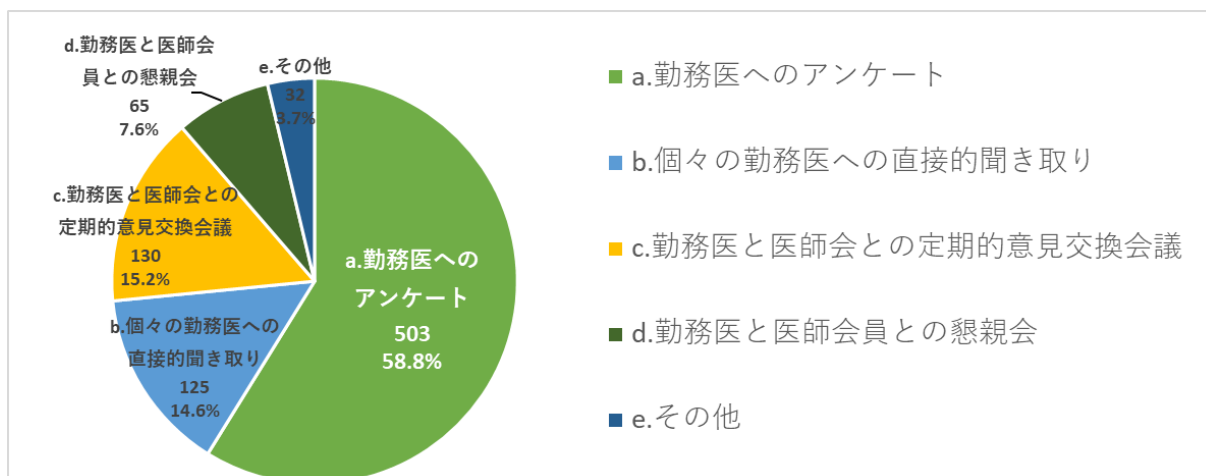
60%近くが「a. ある」と回答した。

2. 医師会を通じて、勤務医の意見が日本のあるいは地域の医療政策に反映されることをご存知でしたか。（855件の回答）



80%近くが「b. 知らない」と回答している。

3. どのような場あるいは仕組みがあれば、より容易に勤務医の声を、まずは地域の医師会につなぐことができるとお考えですか。(855件の回答)



a. 勤務医へのアンケートを挙げたものが60%近く、他にはc. 勤務医と医師会との定期的意見交換会やb. 勤務医への聞き取り調査が夫々15%程度であった。数は少ないが自由記載の回答では医師会は開業医のための組織という認識からと思われる意見が目立った。

【考 察】

1. では医療政策の具体的な内容については聞いていないが他の問いに対する自由記載の回答を参考にすると、勤務医の待遇改善や医師の偏在、働き方改革などが考えられる。

2. では医師会は開業医の意見を代弁する機関といったイメージが影響していると考えられる。

3. ではアンケート調査に対する回答であるというバイアスが掛かっていることを差し引いて考える必要があるが、個々人がこうしたアンケートをこれまで受けていなかったことや他に方策を考えつかないことの表れとも言える。

【結論・課題】

日本医師会の会員に占める勤務医の割合は2020年以降50%を超えているが勤務医の医師会加入率は低く、例えば福岡県における勤務医の医師会加入率は現在36.7%でこの20年で2%程度しか増えていない。入会率は上がっていないが、勤務医の総数が増えたため会員に占める割合が増えている。また研修医(C会員)の入会率が上がってからも勤務医の入会率は上がっておらず、B会員への移行が進んでいないことがわかる。

医師会を業界団体と考えると個人事業主である開業医と被雇用者である勤務医では団体に求めるものに違いがあるのは当然であろう。例えば診療報酬改定の動向に開



業医は関心が高いが、一般に卒業年次や経験により給与が決められる勤務医は幹部として病院経営に参画している者以外は関心が薄いことは、ほとんどが勤務医経験を有する開業医にも理解できると思う。

医師会と行政をつなぐものとしては日本医師連盟があり参院選全国区に組織内候補を擁立し議席を獲得することを通じて医師会の提言を国政に反映する活動を行っているが、現状では国の医療政策に対するその影響力は大きいとは言えない。また医師会から与党議員への献金がメディアによって次の診療報酬改定に絡めた形で報道されることがあり、勤務医から見ればやはり医師会は開業医の権益団体ではないかというイメージダウンに繋がっている。医師会は職能集団として日医総研（日本医師会総合政策研究機構）による政策提言などを通じて公益性の高い活動を行っているが、それらは一般に報道されることは少なく、勤務医にもあまり周知されていない。

実は25年前の平成10・11年度の日本医師会勤務医委員会答申「医師会の組織強化への勤務医からの提言」を読むと医師会の構造改革（例えば日医代議員に占める勤務医の割合を増やすこと）や入会や異動に際しての手続きの簡素化、会費の低減など今回も課題とされることの殆どが既に取り上げられていることがわかる。それだけ解決の難しい問題であることの証左であろう。

## おわりに

勤務医部会委員会では、この2年間にわたり「実効的な勤務医意見の集約・支援について－医師会活動に勤務医の参加を－」をテーマに議論を行ってきた。今回、アンケートを通じ、彼らの率直かつ厳しい意見を知ることができた。回答には多くの時間を要したことと思う。御回答頂いた若手医師の方々に感謝する。また膨大な量の結果を項目毎にまとめて頂いた各委員の先生方ならびに事務局の方々のご尽力に感謝する次第である。アンケート結果等については項目ごとにまとめてあり、詳細はそちらをご覧頂きたいが、医師会に対するイメージはかなり厳しいことがあらためてはっきりした。現状では、会費減免にもかかわらず、一定数は今後も入会の希望はないようだ。しかしながら医師会の活動内容の重要性、入会のメリット等をもっと知り、さらに若手勤務医の労働環境等が改善されて精神的余裕が出てくると、会費が許容内で入会手続も簡便であれば入会してもいいと考える者も増えるのではないかと考える。医師会のイメージ、即ち開業医のための利権集団という悪い印象を払拭する必要がある。そのためには広報活動に加え、医師会内における勤務医の発言力の強化が求められるものと考えます。

## 参考資料：アンケート質問項目

### 勤務医部会委員会「実効的な勤務医意見の集約・支援～医師会活動に勤務医の参加を～」 に関するアンケート(Googleform で実施)

※アンケートにご協力いただきありがとうございます。本アンケートは5分程度回答に時間を要します。

- 基本情報について（7問）
- 医師会のイメージについて（7問）
- Ⅰ 医師会から勤務医への情報発信について（12問）
- Ⅱ 勤務医が医師会に望むこと（16問）
- Ⅲ 勤務医の意見を集約する方法（3問）

#### ○先生の基本情報について（7問）

1. 先生の性別をお尋ねします。
  - a. 男性
  - b. 女性
  - c. 未回答
  
2. 先生の年齢をお尋ねします。
  - a. 24～29歳
  - b. 30～39歳
  - c. 40歳以上
  
3. 卒後何年目ですか？
  - a. 1～2年目
  - b. 3～5年目
  - c. 6～10年目
  - d. 11年目以上
  
4. 勤務先にて、常勤または非常勤かをお尋ねします。
  - a. 常勤
  - b. 非常勤
  
5. 勤務先の主体をお尋ねします。
  - a. 大学病院
  - b. 国公立・公的（JCHO、日赤、済生会 etc.）病院
  - c. 一般病院（民間・医療法人）
  - d. その他（ ）
  
6. 勤務先の病床数をお尋ねします。
  - a. ～99床
  - b. 100～199床
  - c. 200～299床
  - d. 300～399床
  - e. 400～499床
  - f. 500床以上

7. 主たる診療科をお尋ねします。(初期研修医の場合は3年目に進もうとしている診療科)
- |                       |           |                 |
|-----------------------|-----------|-----------------|
| 1. 内科                 | 14. 心療内科  | 28. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 2. 呼吸器内科              | 15. 外科    | 29. 小児外科        |
| 3. 循環器内科              | 16. 呼吸器外科 | 30. 産婦人科        |
| 4. 消化器内科              | 17. 心臓外科  | 31. リハビリテーション科  |
| 5. 腎臓内科               | 18. 血管外科  | 32. 放射線科        |
| 6. 脳神経内科              | 19. 乳腺外科  | 33. 麻酔科         |
| 7. 糖尿病内科<br>(内分泌代謝内科) | 20. 消化器外科 | 34. 病理診断科       |
| 8. 血液内科               | 21. 泌尿器科  | 35. 臨床検査科       |
| 9. 膠原病内科              | 22. 脳神経外科 | 36. 救急科         |
| 10. 感染症内科             | 23. 整形外科  | 37. 総合診療科       |
| 11. アレルギー科            | 24. 形成外科  | 38. 緩和医療科       |
| 12. 小児科               | 25. 美容外科  | 39. その他 ( )     |
| 13. 精神科               | 26. 眼科    |                 |
|                       | 27. 皮膚科   |                 |

#### ○医師会のイメージについて（7問）

アンケートにお答えいただく前に、医師会のイメージについてお伺いします。

1. 医師会は医師の利益のために動く利益集団である  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
2. 開業医のために存在する  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
3. 会費が高いわりに、勤務医にとってメリットは少ない  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
4. 医師会が何のために存在しているか分からない  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
5. 行政と医療制度の調整のために重要な働きを担っている  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
6. 国民によりよい安全な医療を保険診療で行えるように、という国民医療を守る活動を行っている  
a. そう思う b. 思わない c. わからない
7. 今後、医師会に入会または継続しようと考えている  
a. そう思う b. 思わない c. わからない (決めていない)

## I 医師会から勤務医への情報発信について（12問）

1. 医師会には勤務医も加入できることを知っていますか？
  - a. 知っている
  - b. 知らない
  
2. 医師会のことはどこで知りましたか？（複数回答可）
  - a. 大学に在学中（講義や交流会など）
  - b. 新規臨床研修医オリエンテーション
  - c. 職場の同僚や上司より
  - d. 家族、知人より
  - e. 配布された冊子やちらし
  - f. 日医雑誌・福岡県医報など
  - g. テレビや新聞、ネットなど
  - h. 医師会の研修会や講演会など
  - i. その他(自由記載) ( )
  - j. 知らないため回答不可
  
3. 医師会の活動内容についてご存じですか？
  - a. よく知っている
  - b. 知っている
  - c. あまり知らない
  - d. まったく知らない
  
4. 医師会の活動について認識されているものを下記よりご回答ください。（複数回答可）
  - a. 研修会・セミナー・生涯教育講座等学習の場の提供
  - b. 産業医・スポーツ医・かかりつけ医等の各種制度取得体制
  - c. がん検診、妊婦、乳幼児、学校健診等の充実
  - d. 医事紛争への支援
  - e. 研修医や若手医師との交流
  - f. 女性医師支援
  - g. 地域医療体制の整備
  - h. 福岡県医学会の開催
  - i. 医療経営基盤に関するサポート
  - j. 福岡県医報の発行
  - k. 医師資格証の発行
  - l. 医師年金
  - m. 医師賠償責任保険
  - n. 医師国保組合（健康保険の加入）
  - o. 医師信用組合の自動車・住宅・学資金・開業資金等の融資
  - p. 県民への健康講座や医療に関する相談事業
  - q. 診療報酬・医療政策等に関する行政への働きかけ
  - r. 勤務医の意見の吸い上げ
  - s. 勤務医の支援・処遇改善
  - t. その他 ( )
  - u. 知らないため回答不可

5. 医師会に所属していますか？
- 会員
  - 非会員
  - 今後入会する予定
  - 今後入会する予定はない
  - わからない
6. 5で「a.会員」「c.今後入会する予定」と答えた方にお尋ねします。  
入会の経緯は下記のうち何ですか？
- 個人で調べて入会した
  - 上司に勧められて入会した
  - 同僚に勧められて入会した
  - 勤務先の病院の規定で入会した
  - その他(自由記載) ( )
7. 5で「b.非会員」「d.今後入会する予定はない」と答えた方にお尋ねします。  
その理由は何ですか？（複数回答可）
- 入会手続きがよく分からない
  - 手続きが面倒（入会時、会員種別変更時など）
  - 会費が高い
  - 入会するメリットが少ない または わからない
  - 勤務医には必要ない（開業医に必要なもの）
  - 研修医、若い医師には必要ない
  - 先輩、同僚医師が入会していない
  - 医師会の活動内容や支援を詳しく知らない
  - 自身のスキルアップには関係ない
  - その他 ( )
8. あなたが医師会の情報を得るならば、どのような方法で入手しますか？（複数回答可）
- ホームページ
  - SNS（Facebook、YouTube など）
  - 病院などへの配布パンフレット
  - 個人への郵送資料（パンフレットなど）
  - 講演会、交流会など
  - その他(自由記載) ( )
9. 医師会に関してお尋ねします。
- 令和5年度より医学部卒後5年間は会費減免の対象となり、医師会の会費が無料になること  
a.知っている b.知らない
  - 会費減免期間が医学部卒後5年間に延長となることから、医師会への入会はどうしますか？  
a.入会する b.入会しない c.わからない
  - 医学部卒後6年目以降の会費減免期間でなくなった場合、医師会への入会はどうしますか？  
a.入会する b.入会しない c.わからない
  - 日本医師会員の特典として、30歳までは医賠償保険に年間15,000円で加入できること  
a.知っている b.知らない

- 5) 広報誌や講演会などからさまざまな情報を得ることができること
  - a.知っている b.知らない
- 6) 生涯教育制度により、生涯にわたって自らの知識を広げ、技能を磨き、常に研鑽できること
  - a.知っている b.知らない
- 7) 転職、勤続年数や勤務形態の変化などによって収入が変動しても、支払う保険料は変わらない  
医師国保に加入できること
  - a.知っている b.知らない
- 8) 医師協同組合を通じて、ローン・車・生命保険等、各種指定店での優遇が受けられること
  - a.知っている b.知らない

10. 日本医師会が窓口となっている私的年金として医師年金があります。この年金は一生涯受け取り、年金保険料の加算は自由で、受け取りは4タイプ（15年保証期間プラス終身型（B1）、5年・10年・15年確定年金型（B2・B3・B4））の中から選ぶことができます。

- 1) このような年金をご存知でしたか。
  - a.知っている b.知らない
- 2) 医師年金の予定利率は1.5%（令和4年10月1日現在）で、保険料が複利で運用されることから、早く始めれば始めるほど高い効果が期待できます。このような年金に興味はありますか。
  - a.興味がある b.興味はない
- 3) 詳しく知りたいと思いますか。
  - a.思う b.思わない

【現在の利回りで計算した例】  
 30歳から医師年金契約開始。月払い額は、基本年金12000円+6000円×8口=60000円/月。  
 65歳までに約2500万円支払い。  
 ○B1（15年保証期間プラス終身型）の場合：65歳から133000円毎月終身受け取り。80歳までで約2400万円受け取り、その後はプラスとなり、88歳まで生存すると、約1000万円のプラスとなる。  
 ○B4（15年確定年金）の場合：65歳から80歳まで189800円/月受け取り（合計3410万円）、以後6600円/月受け取り。  
 詳しくご覧になりたい方はHP（<https://nenkin.med.or.jp>）をご参照ください。

11. 医師会の支援事業で利用したいと思われるのはどれですか（複数回答可）
- a. 医療情報提供
  - b. 医師賠償保険
  - c. 医師年金
  - d. 研修会、生涯教育制度
  - e. 医師国保への加入
  - f. 資金融資制度
  - g. その他(自由記載) ( )

1 2. 勤務医の先生に所属学会についてお尋ねします。

1) 現在いくつの医学会に所属していらっしゃいますか。

- a. 1～3つの学会
- b. 4～6つの学会
- c. 7～9の学会
- d. 10以上の学会

2) 医師会と医学会では組織の性格が異なりますが、所属学会の年会費と比べた場合、医師会の年会費はどのように感じますか。

- a. 安い
- b. 高い
- c. 妥当
- d. わからない



## Ⅱ 勤務医が医師会に望むこと（16問）

勤務医（B 会員）の年会費は県医師会 26,000 円、日本医師会 28,000 円（日医医師賠償責任保険に加入すると+40,000 円、その他都市医師会の会費が別途必要）です。（今後は卒後 5 年目まで会費が免除されます。）

医師会についてお尋ねします。

1. 医師会への入会方法がわからない。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
2. 医師会への入会手続きが煩雑である。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
3. 医師会費が高額である。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
4. 異動が多い勤務医にとって、異動の手続きが面倒だと思う。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
5. 入会手続きが煩雑なことが入会をためらう一つの理由として取り上げられており、入会をサポートするシステムがあれば医師会入会を考える。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
6. 日本、県、都市医師会と構造が複雑である。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
7. 身近な都市医師会に入会すれば、自動的に県や日本医師会に入ったことにしてほしい。  
（医師になれば医師会への入会が必須としてほしい）  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
8. 医師会員は医賠償保険に自動的に入れるシステムにしてほしい。  
（すべて医賠償保険込みの会費設定にしてほしい）  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
9. 医師会の活動内容に賛同でき、自分のニーズに合う。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
10. 健康スポーツ医・産業医の認定やかかりつけ医機能研修制度などを活用したいと思う。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
11. 勤務医に対する手厚い支援がある。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
12. 勤務医での会員歴に対して、開業時のメリットがあればいい。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない
13. 医師会員であれば各種学会会費が減免される制度が欲しい。  
a. とても思う b. やや思う c. 思わない

14.福岡県の初期臨床研修医の医師会 C 会員への入会率は 50%以上ですが研修修了時の勤務医 B 会員への移行が少ない状況です。その原因としては年会費が発生する問題の他に、後期研修(専攻課程)に入る時点で病院を異動することが多いため、医師会の入会手続きや資格変更が負担になっていることなどが考えられています。この問題を解決するためにはいくつかの方法が考えられますが、会費の問題は別としてどれが最も良いと考えられますか。

- a. C 会員で入会した際に自分でメールアドレスや ID (例えば会員番号や医籍登録番号) を登録し、初期研修修了時に医師会がメールで B 会員への資格変更を促し、個人で会員専用ページから病院の異動や資格変更をできるようにする。
- b. 県内の異動の際には、勤務先病院が変更手続きを行う。
- c. 大学医局に入局した時点で手続きを医局が一括管理する。
- d. その他 (具体的に記載して下さい) ( )

15.上記 1～14 の設問以外で、医師会へ入会しやすくなると思われることがありましたらご記入ください。

その他(自由記載) ( )

16.勤務医が所属する組織以外から与えられるサービスのうち、何があったら便利と考えますか？

ニーズがあると思われるものを教えてください。(複数回答可)

- a. 医療関連情報の配信
- b. 利用しやすい文献検索サイト
- c. 医学論文作成支援
- d. 就職先やバイト先の情報
- e. 開業時の支援や情報提供
- f. 実技の習得のための場
- g. 医事紛争時の支援
- h. 医学雑誌購入時などの会員価格、医師割引のようなもの
- i. 特にない
- j. その他 (自由記載) ( )

### Ⅲ 勤務医の意見を集約する方法（3問）

医師会は、地域の声を国や地域の医療政策の決定に迅速につなぐ活動をしています。

1. 勤務医の置かれた医療政策の状況などで、こうしてもらいたい、これはやめてほしい、といったご意見を抱かれることがありますか？
  - a. ある
  - b. ない
  
2. 医師会を通じて、勤務医の意見が日本のあるいは地域の医療政策に反映されることをご存知でしたか。
  - a. 知っている
  - b. 知らない
  
3. どのような場あるいは仕組みがあれば、より容易に勤務医の声を、まずは地域の医師会につなぐことができるとお考えですか。
  - a. 勤務医へのアンケート
  - b. 個々の勤務医への直接的聞き取り
  - c. 勤務医と医師会との定期的意見交換会議
  - d. 勤務医と医師会員との懇親会
  - e. その他（自由記載）（                      ）

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

